魅せる、守る、保つ。

日新総合建材

2014 年10 月改訂

金属サイディング

施工マニュアル

【新築木造用】

目次

注意事項

●設計・施工上の禁止事項 2 ～ 3
●設計・施工の注意事項 4
●取り扱い時の注意事項 5

通気構法について

●通気構法の役割 6
●通気構法のポイント 7

防水について

●防水設計 8

防火認定関係

●建築基準法の制限（外壁） 9
●45 分準耐火構造
（木造下地　軸組構造） 10～11
●防火構造
（木造下地　軸組構造） 12～13
●防火構造
（木造下地　枠組構造） 14～15

設計・施工のポイント ヨコ張り

●施工に必要な工具 16
●施工手順 17
●下地躯体の確認 18
●土台水切の取り付け
⇒透湿防水シート張り 19
●胴縁の施工 20
●出隅部の施工（ベース） 21
●入隅部の施工 22
●目地部の施工（ベース） 23
●開口部廻りの役物施工 24
●開口部の防水処理 25
●サイディング本体の施工 26
●出隅部の施工（キャップ） 27
●入隅部の施工 28
●目地部の施工（キャップ） 29
●開口部の仕上げ 30

設計・施工のポイント タテ張り

●施工手順 31
●下地躯体の確認 32
●土台水切の取り付け
⇒透湿防水シート張り 33
●胴縁の施工 34
●出隅部の施工（ベース） 35
●入隅部の施工 36
●開口部廻りの役物施工 37
●開口部の防水処理 38
●サイディング本体の施工 39
●中間部　縦継ぎの施工 40
●出隅部の施工（キャップ） 41
●入隅部の施工 42
●開口部の仕上げ 43
●施工後のメンテナンス 44

注意事項

ヨコ張り　タテ張り

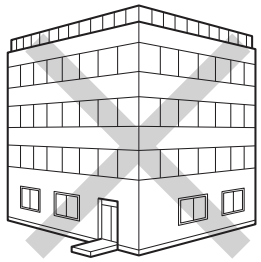
設計・施工上の禁止事項（1）

一般的な禁止事項

サイディングは、壁に施工してください。次のような施工はトラブルの原因となりますので避けてください。

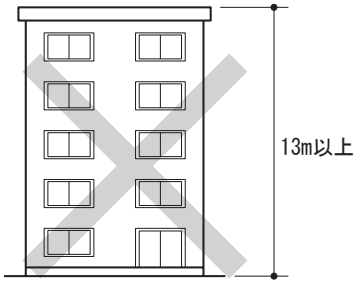
1 耐火建築物への施工

耐火構造が要求される建物への施工はできません。



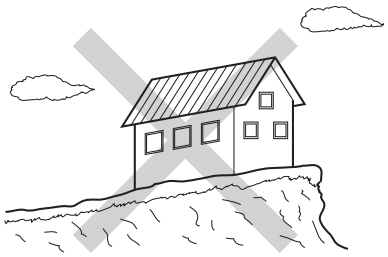
2 高さ 13mを超える建物への施工

風圧・地震を考慮して軒高 9m、棟高さ 13mを超える建築部位に施工しないでください。



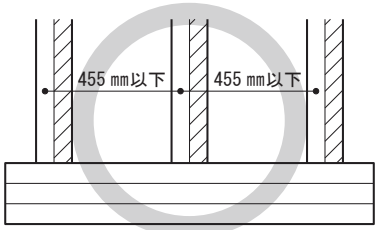
3 崖上などの建物への施工

風圧・地震を考慮して、崖上からの棟高さが見かけ 13mを超える位置の建物には使用しないでください。



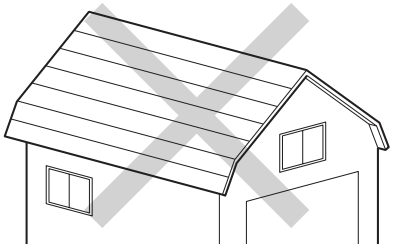
4 胴縁間隔基準寸法以上の施工

胴縁間隔基準寸法以上の施工をしますと、耐風圧強度が弱くなり、雨漏りや、反りの原因となります。



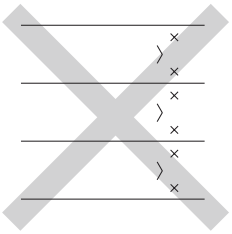
5 垂直壁以外への施工

傾斜壁及び傾斜のあるパラペット・屋根などへの施工は、雨漏りの原因となります。



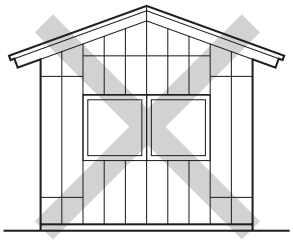
6 斜め張り施工およびタテ張り用のヨコ張り施工

雨漏りの原因となります。施工マニュアルに従って正しく施工してください。



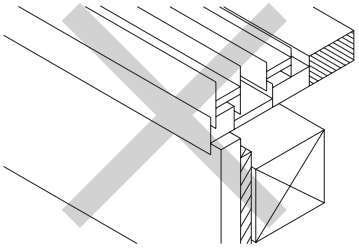
7 目地・水切の揃わない乱張り施工

乱張り施工は雨漏りの原因となります。目地ジョイナーおよび水切を途切れないように通してください。



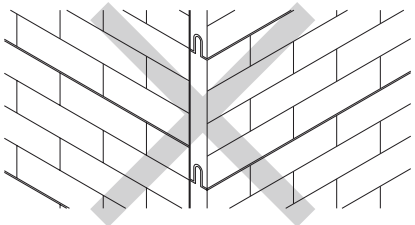
8 開口部廻りの役物なし施工

伝い水などにより、サッシ廻りが汚れたり、雨漏りの原因となります。また、寒冷地では凍害の原因となります。



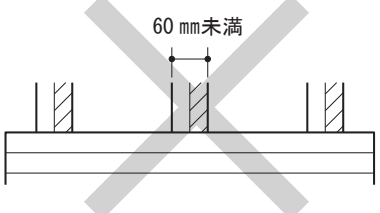
9 小口の露出した施工

芯材の劣化、小口面の錆、雨水浸入などの原因となりますので、必ず役物で納めてください。



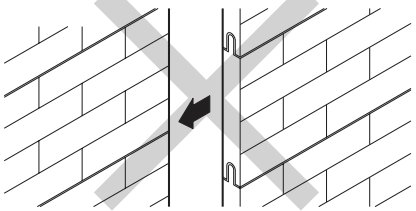
10 下地材幅 60 ㎜未満でのヨコ張り目地ジョイナー、タテ張り中間水切、サイディングの取り付け

下地材幅 60 ㎜未満の場合、ベース役物、中間水切の取り付け不良やサイディング材の固定が不安定になる場合があります。



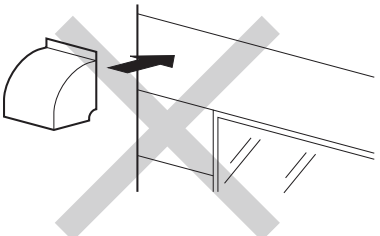
11 役物未使用の突き付け施工

ヨコ張り目地繋ぎ部や小口の見える施工、タテ張り中間水切部の役物なし施工は、芯材の劣化、小口面の錆、雨水浸入などの原因となりますので、必ず役物で納めてください。



12 サイディング施工後の換気口施工

換気口をサイディング施工後に取り付けると、壁体内に湿気が入りやすい構造と鳴り、結露、雨漏りなどの原因となります。屋内換気一体型配管としてください。

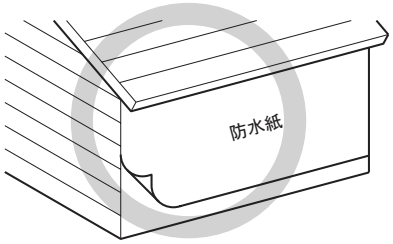


注意事項

設計・施工上の禁止事項（２）

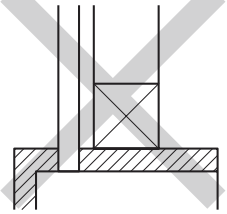
13 防水紙のない施工

JIS A 6111（透湿防水シート）に適合する透湿防水シート又はこれと同等以上の透湿性能及び防水性能を有する防水紙のない施工は役物廻り、開口部廻りの雨漏りの原因となります。



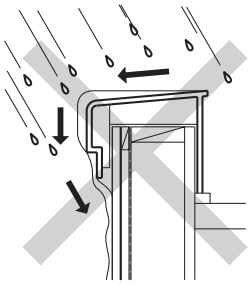
14 基礎部モルタルへの埋め込み施工

基礎部のモルタルへの埋め込み施工は、毛細管現象により、モルタル部が吸水し、凍害やモルタル剥離、カビの発生などの原因となります。また、躯体の腐食原因となります。



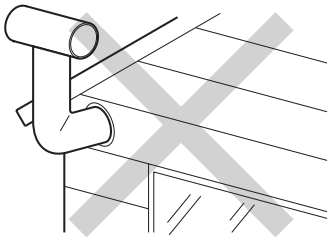
15 パラペットなどの外勾配笠木の施工

水平または外勾配の笠木を使用しますと、外壁面に雨水が多量に流れ、汚れなどの原因となります。



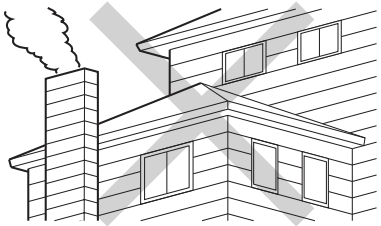
16 サイディングに給湯・煙突などの高温部が直接触れる施工

高温加熱により火災の原因となるとともに、結露発生による凍害の原因となります。



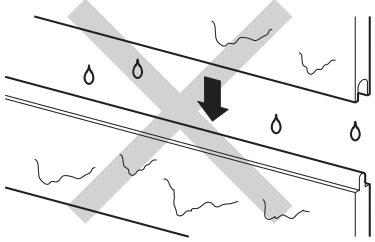
17 煙突への施工

煙突内で発生した水分や熱の影響によって、サイディングの反り、変形の発生原因となります。



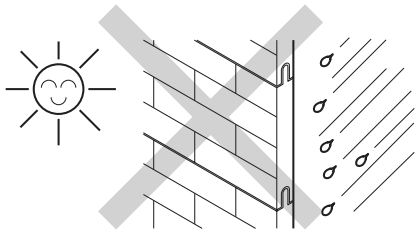
18 含水したサイディングの施工、濡れた下地への施工

雨濡れなどで含水したサイディングは反り、変形の原因となり、濡れた下地への施工は躯体への腐食原因となります。仮置き養生はシートなどで雨濡れ防止をしてください。



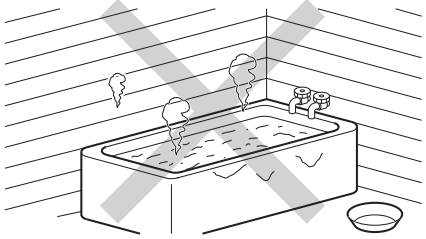
19 裏面が濡れる構造での施工

裏面からの吸水や感想の繰り返しは、反り、変形、裏面紙の変色、カビの発生原因となります。



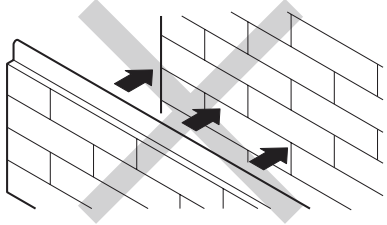
20 外装用途（壁）以外の施工

外装用途以外での施工（異常な水分や熱などの影響を受ける場所への施工、塀などへの施工）は、サイディングの反り、変形の原因となります。



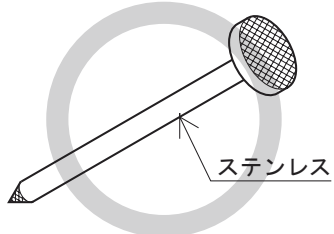
21 リフォーム用として使用する場合の胴縁なし施工

リフォーム用として使用する場合、下地胴縁なしで施工すると既存壁の不陸などで外観不良（凸凹）が発生しやすく、水分が浸入した場合の既存壁やサイディングの腐食・腐敗の原因となります。



22 防錆処理した釘・ビス（ステンレス釘、亜鉛めっき釘など）以外の使用

釘やビスが腐食すると屋内側への水分浸入、外壁面の錆などが発生する可能性があります。



注意事項

設計・施工の注意事項

安全のために

⚠ 警告

死亡または重傷を負う可能性が想定される場合の表示です。

1）強風、雨天、降雪、高温時など気象条件の厳しい時は、高所作業を中止してください。風にあおられたり、雪や雨で滑るなどが原因で落下事故を起こす危険性があります。
2）高所作業は関係法規に従ってください。

⚠ 注意

取り扱いを誤ると傷害を負う危険や物的損害などの可能性が想定される場合の表示です。

1）取り扱い時は、ヘルメット、安全帯、ゴム付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。
2）施工現場での切断バリ及び切断切粉はただちに取り除いてください。けがをしたり、もらい錆の発生原因となります。
3）防水のため、施工時に用いる防水紙は、JIS A 6111（透湿防水シート）に適合する透湿防水シート又はこれと同等以上の透湿性能及び防水性能を有するものを使用してください。
4）胴縁間隔は455㎜以下を守ってください。水密性、耐風圧性などの性能を保てない可能性があります。
5）防火のため、煙突など加熱箇所との取り合いは、めがね石などの有効な部材をご使用ください。
6）梱包材、残材などは産業廃棄物として処理してください。
7）補修用塗料は、有機溶剤系を使用していますので専用マスク、保護手袋を使用の上、風通しの良いところでご使用ください。
8）電動工具など工具を使用する際は、各工具の取扱説明書に従って正しくご使用ください。特に感電には注意してください。
9）寒冷地では、屋内結露防止のため通気工法で施工してください。

免責事項

サイディングは、住宅などの外壁化粧板として十分に満足しうる品質を備えていますが、正しい施工と維持管理がなされることによってはじめて耐久性や耐候性、その他の諸性能が発揮されることになります。正しい施工と維持管理を実行するようお願いします。なお、万一サイディングに不具合が生じた場合は、次の免責事項をふまえたうえで対応させていただきますのでご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

1）施工説明書に記載された事項に反した施工、取り扱いが原因によって不具合が発生した場合。
2）純正役物・付属品を使用しなかった場合、及び弊社の製品以外の部材による不具合。
3）施工に起因する事故、釘部の錆やもらい錆、及び化粧役物端部の錆などによる不具合。
4）商品性能を超えた性能を必要とする場所（13m を超える建物や高台の上など）に取り付けられたり、建物の構造に起因する変形や、躯体の腐食などによる不具合。
5）入居者（管理人含む）または第三者による維持管理不注意（たわしで強く擦ったり薬品洗浄するなど）、及び入居者または第三者の故意・過失に起因する不具合。
6）地震、風水害、落雷などの不可抗力の自然災害に起因する不具合。
7）地盤沈下、近隣の土木工事、火山ガス、道路・鉄道などの周辺環境による不具合。
8）自然に生じる外壁のこけやカビ、変退色、伝い水による汚れなど、施工後の経年変化による不具合。
9）瑕疵を発見後、速やかに届け出がなされなかった場合。不具合を放置することによって生じた拡大損害。
10）海岸に近く（5km 以内）塩風の吹く地域及び凍結防止剤を散布する地域による塩害発生のおそれのある地域での使用。
11）シーリング自体及び現地塗装及びそれらに係わる不具合。
12）建築基準法及び関係法規に違反した使用による不具合。
13）施工当時の実用化された技術では予測することが不可能な現象による不具合。

注意事項

取り扱い時の注意事項

運搬時の注意

■車両による運搬時には、荷台に突起物や濡れなどがないことを確認したうえで平積みにしてください。
また、トラックのとりいに掛けるような斜め積みは製品の折れにつながりますのでやめてください。
■急ブレーキなどによる荷崩れや損傷を防止するため、荷振れ防止板、ロープ掛け、角には当て金を入れた荷詰めを行ってください。過度の締めつけは製品を破損する恐れがありますので注意してください。
■手でケース単位、1枚単位で持ち運びするときは、断面が垂直となるように運搬してください。
■梱包製品は、PPバンドを持たないでください。切れて製品を落下させるおそれがあります。
■輸送時の雨濡れ対策として、防水シート養生をしてください。必要によりパレットなどを用いて製品と荷台が直接触れないようにしてください。

保管時の注意

■製品の保管は直置きせず、雨水・湿気などの影響を受けない屋内の平らな場所に保管してください。やむを得ず屋外で保管する場合は、製品パレットまたは台木の上に合板を重ねた水平面に置き、防水シートで覆ってください。また、防水シートが風で飛ばされないようにしてください。
■製品より小さなパレットでの保管は、製品を破損するおそれがありますので使用しないでください。
■梱包のダンボールは可燃物です。火の粉が飛んでくるような場所や周囲に火気のある場所は避けてください。

施工時の注意

＜漏水防止＞
■防水の万全を期するために、下地に用いる防水紙は、JIS A 6111（透湿防水シート）に適合する透湿防水シート又はこれと同等以上の透湿性能及び防水性能を有するものを使用してください。施工はそれぞれのマニュアルに従ってください。
■鉄骨下地の場合、柱・梁に直接取り付けずに必ず胴縁を使用し、これにサイディングを施工してください。
■芯材や裏面紙などには水がかからないようにしてください。
■施工中の防水紙の破れは専用補修テープや重ね張りにて補修し、サイディング裏面紙の破れはアルミテープなどで補修してください。
■必ず製品の働き幅で墨出しした上で、これに合わせて施工してください。
■エアコン配管や換気扇フードなどを通すためにサイディングに穴をあけた時は、建物内部に湿気が入る構造にならないように注意してください。また外部からの雨水侵入防止のために有効な防水処理をしてください。
■サイディングの外側から雨樋、縦樋などの固定金具を止める釘・ビスなどはサイディングの外側から胴縁まで達する長さのものを使用し、その上にコーキングを行ってください。釘やビスが短い場合は表面材に負荷がかかり、水漏れや穴あきなどの原因となります。
■本体と付属品の隙間から雨水の侵入を防ぐため、必ず指定の位置にコーキング材を充填してください。

＜製品の破損・錆の防止＞
■切断時の切粉は錆の発生原因となりますので、十分に除去して下さい。
■施工に使用する釘・ビス類はステンレス製または亜鉛めっきをしたものを使用してください。
■製品破損防止のため、製品（梱包）に人が乗ったり、重量物を載せないでください。また、施工中の壁面にハシゴなどを立てかけないでください。
■製品に擦り傷がつく可能性がありますので、梱包から出すときに引きずったり表面を直に地面に置いたりしないでください。また、硬いもので擦らないように注意してください。
■切断時の火花は、製品表面を痛める場合がありますので注意してください。溶接の炎や火花などが当たると引火する可能性があります。また、梱包ダンボールは可燃性ですので火気には十分注意してください。
■風の強いときには、あおられて製品を破損する場合がありますので注意してください。

＜クリーニング＞
■施工中にモルタルなどが付着した場合は、速やかに除去してください。
■製品表面をクリーニングする場合は軟らかな布などで表面に傷がつかないように除去して下さい。

廃棄物処理

■梱包材や残材の処理は産業廃棄物として処理してください。

その他

■役物は純正品を使用してください。それ以外の場合は十分な性能を得られないことがあります。
■使用工具などは、それぞれの取り扱い説明書に従って使用してください。

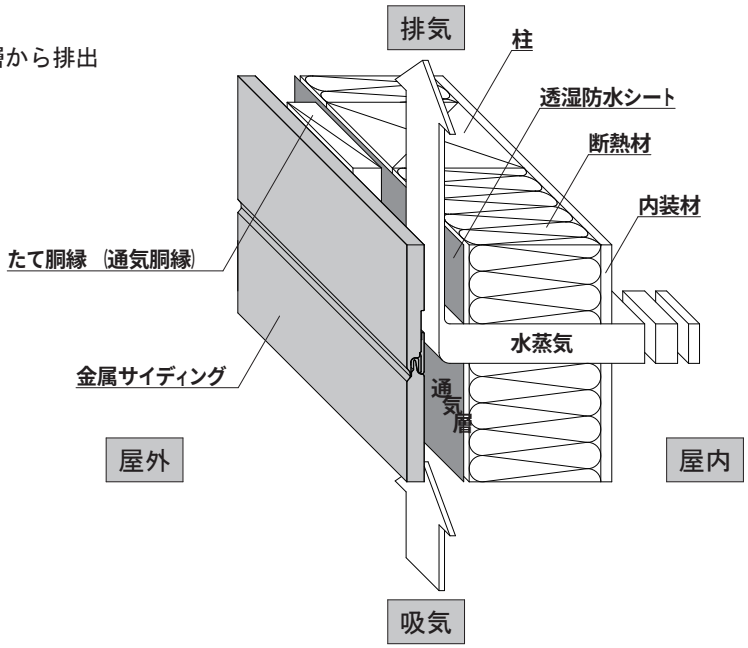
通気構法について

通気構法の役割

弊社では、壁体内の結露を防止し、住宅の耐久性と快適性を向上させるために通気構法（外壁内に通気層を設け、壁体内通気を可能とする構造）を標準構法といたします。

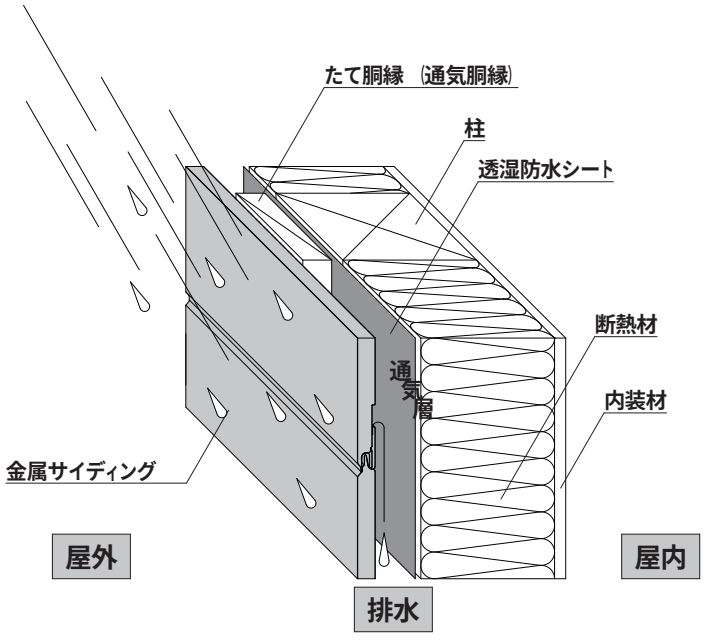
壁体内の結露防止

住宅の内外から壁体内に浸入した水蒸気は、密閉された状態で外気温が低いと、金属サイディングの裏面や壁体内で結露してしまいます。
そのため、通気構法を行い、壁体内の湿気を通気層から排出し、壁体内の結露を防止することが必要です。



壁体内の雨水排出

暴風雨時などに雨水が壁体内に浸入した場合、通気層を確保することにより屋外に排出することができます。



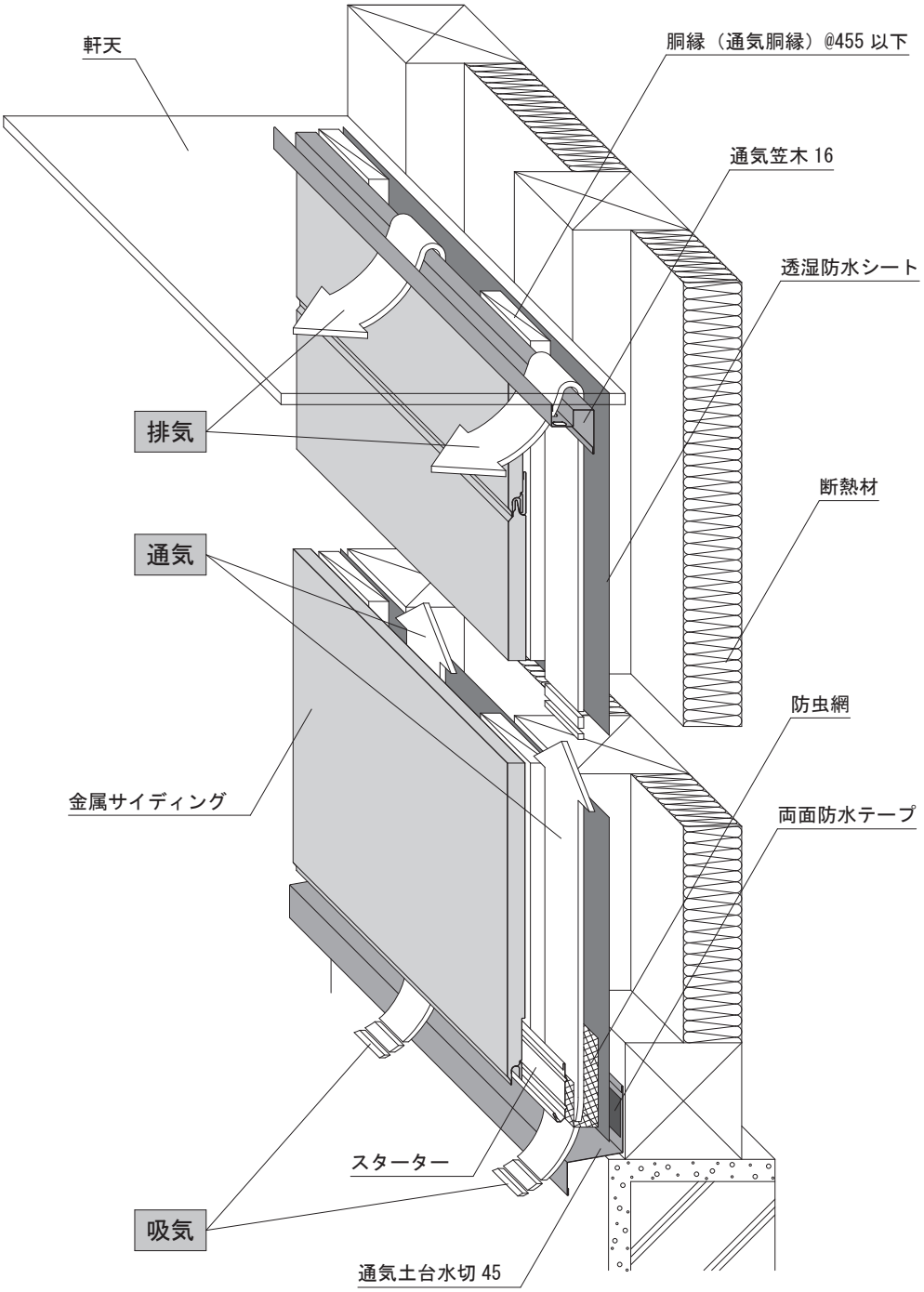
通気溝法について

ヨコ張り　タテ張り

通気構法のポイント

通気のしくみ

通気構法は壁体内に『通気層』という空気が流れる空間をつくることにより、土台部から外気を『吸気』し、『通気』された空気を水蒸気と一緒に軒天部から屋外に『排気』する構法です。



防水について

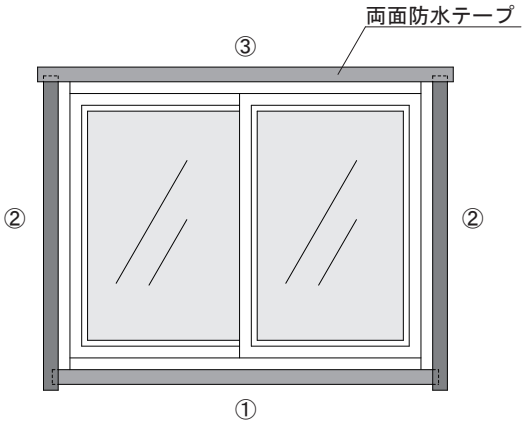
防水設計

金属サイディングは、サイディング本体による一次防水に加え、『透湿防水シート』『防水テープ』の二次防水による防水設計となっております。雨水の浸入を防ぎ、壁体内の湿気を放出しやすくするため『透湿防水シート』並びに『防水テープ』を正しく施工してください。

両面防水テープ

・透湿防水シートを張る前に、開口部の周囲や土台部に両面防水テープ（ブチルゴム系）50㎜幅以上を用い、防水紙を密着させてください。

・開口部の両面防水テープは右図の順序でサッシ枠のつばに張った上に透湿防水シートを張り付け、サッシと透湿防水シートの間に隙間ができないようにローラーなどでしっかり密着させてください。



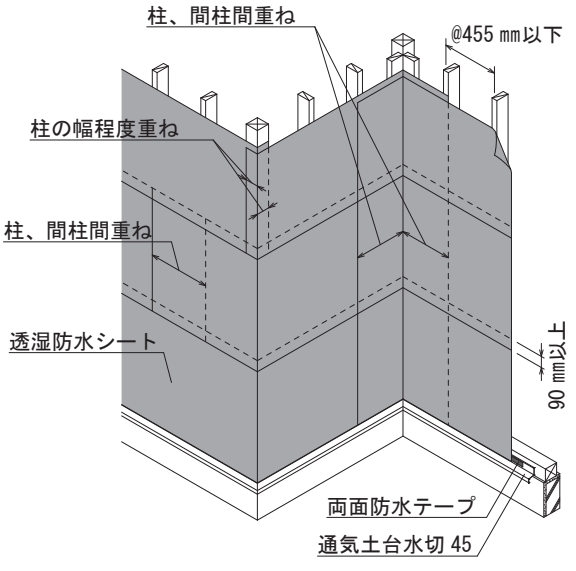
透湿防水シート

・金属サイディングに用いる防水紙は、JIS A 6111（透湿防水シート）に適合する透湿防水シート又はこれと同等以上の透湿性能及び防水性能を有するものとしてください。

・透湿防水シートは横張りを原則とし、下から上へ張り上げ、重ね合わせ代は下図を参照してください。

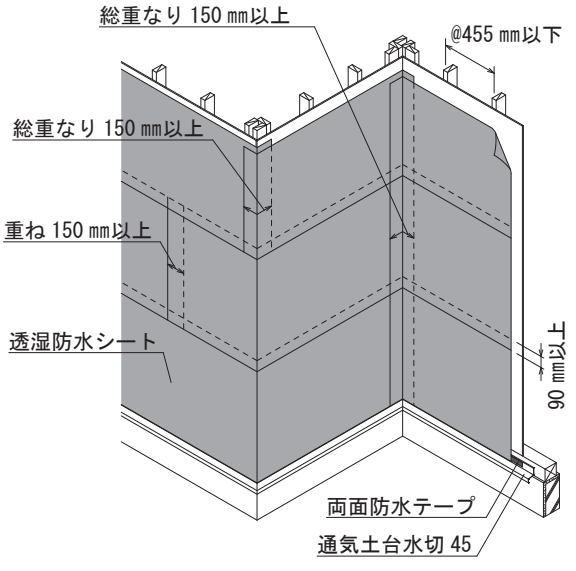
［軸組構造の場合］

・上下90㎜以上、左右は柱（間柱）と柱（間柱）の重ね合わせ代を設けてください。
（左右の重ねは必ず、柱・間柱に留めてください）



［枠組構造の場合］

・上下90㎜以上、左右150㎜以上の重ねあわせ代を設けてください。



防火認定関係

建築基準法の制限　（外壁）

建築基準法における大まかな制限を表しています。建築基準法では、これより詳細な制限を設けている条項がありますので注意してください。また、建築基準法施行令、各自治体の条例などでさまざまな制限が設けられている場合もありますので、管轄行政庁の建築指導担当部署などで必ずご確認ください。尚、防火規制のない地域では、全ての製品が使用できます。

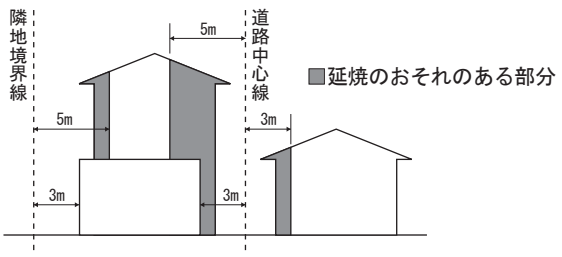
木造下地

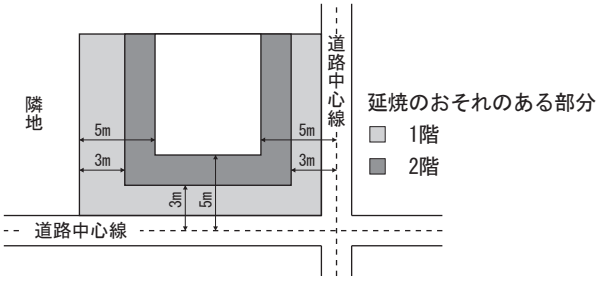
<table>
<tr><th>用途</th><th>地域</th><th>延床面積 ＼ 階数</th><th>S≦100</th><th>100＜S≦500</th><th>500＜S≦1000</th><th>1000＜S≦1500</th><th>1500＜S≦3000</th><th>3000≦S</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共同住宅</td><td rowspan="2">防火地域</td><td>3階建</td><td colspan="5" rowspan="2">耐火建築物（法61条）</td></tr>
<tr><td>1・2階建</td><td>準耐火建築物（法61条）
イ準耐／準耐45分</td></tr>
<tr><td rowspan="2">準防火地域</td><td>3階建</td><td colspan="4">準耐火建築物（法27条、令115条の2の2）
1時間準耐火構造</td><td rowspan="2" colspan="2">耐火建築物（法62条）</td></tr>
<tr><td>1・2階建</td><td>防火構造
（法62条2項）</td><td>準耐火建築物（法27条2項）
（2階が300㎡以上）
45分準耐火構造</td><td colspan="2">準耐火建築物（法62条1項）
イ準耐／準耐45分</td></tr>
<tr><td rowspan="2">22条地域</td><td>3階建</td><td colspan="5">準耐火建築物（法27条、令115条の2の2）
1時間準耐火構造</td><td rowspan="2">耐火建築物
（法21条2項）</td></tr>
<tr><td>1・2階建</td><td>準防火構造
（法23条）</td><td colspan="2">準耐火建築物（法27条2項）
（2階が300㎡以上）
イ準耐／準耐45分</td><td colspan="2">防火構造
（法25条）</td></tr>
<tr><td rowspan="8">戸建住宅</td><td rowspan="2">防火地域</td><td>3階建</td><td colspan="5" rowspan="2">耐火建築物（法61条）</td></tr>
<tr><td>1・2階建</td><td>準耐火建築物（法61条）
イ準耐／準耐45分</td></tr>
<tr><td rowspan="2">準防火地域</td><td>3階建</td><td colspan="2">準防3階仕様
（法62条1項、令136条の2）
防火構造＋内装ぜっこう12㎜以上</td><td colspan="2" rowspan="2">準耐火建築物（法62条1項）
イ準耐／準耐45分</td><td rowspan="2" colspan="2">耐火建築物（法62条）</td></tr>
<tr><td>1・2階建</td><td colspan="2">防火構造
（法62条2項）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">22条地域</td><td>3階建</td><td colspan="3" rowspan="2">準防火構造
（法23条）</td><td colspan="2" rowspan="2">防火構造
（法25条）</td><td rowspan="2">耐火建築物
（法21条2項）</td></tr>
<tr><td>1・2階建</td></tr>
</table>

・□で色付けの箇所がセリオスサイディング、七ッ星サイディングの認定取得範囲です。

延焼のおそれのある部分

火災が周囲に広がるのを防ぐため、道路中心線や隣地境界線などから1階部分で3m、2階部分で5m以下の部分は『延焼のおそれのある部分』として、防耐火構造が強化されます。





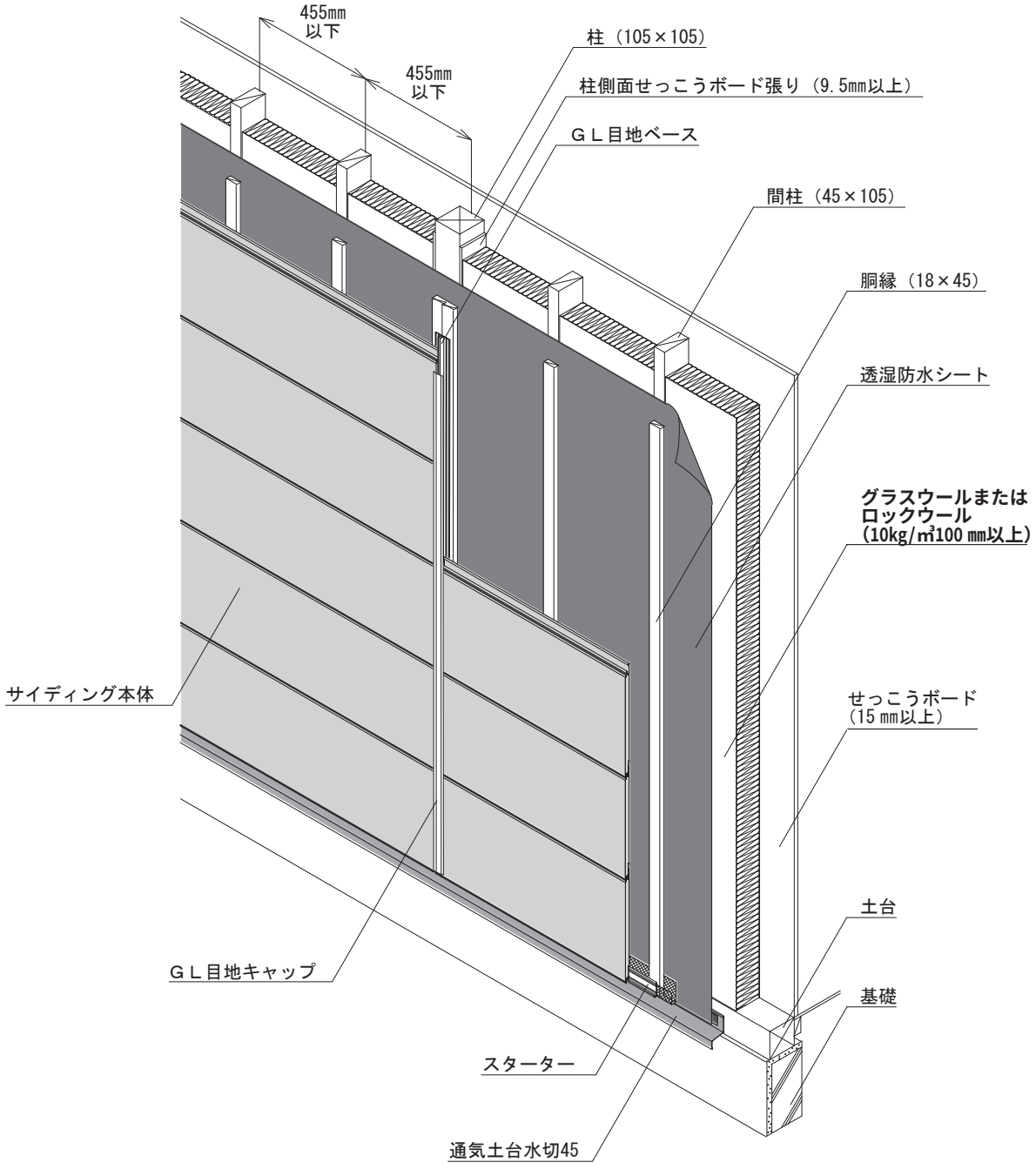
防火認定関係

45 分準耐火構造 （木造下地 軸組構造）：QF045BE-1315

対応製品

石壁グラジェット	スターラインF	くしびき	快星WF	
輝石グラジェット	スターラインR	ビーボーン		
くしびきグラジェット	スターラインウッド	ブリックNEO		
輝石	サガン	快星		
輝石マルチ	サガンマルチ	快星もくめ		

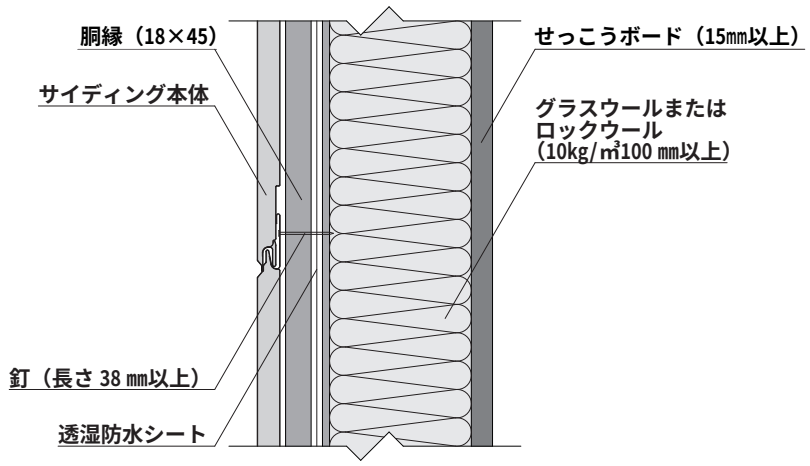
認定納まり図　**ヨコ張り仕様**



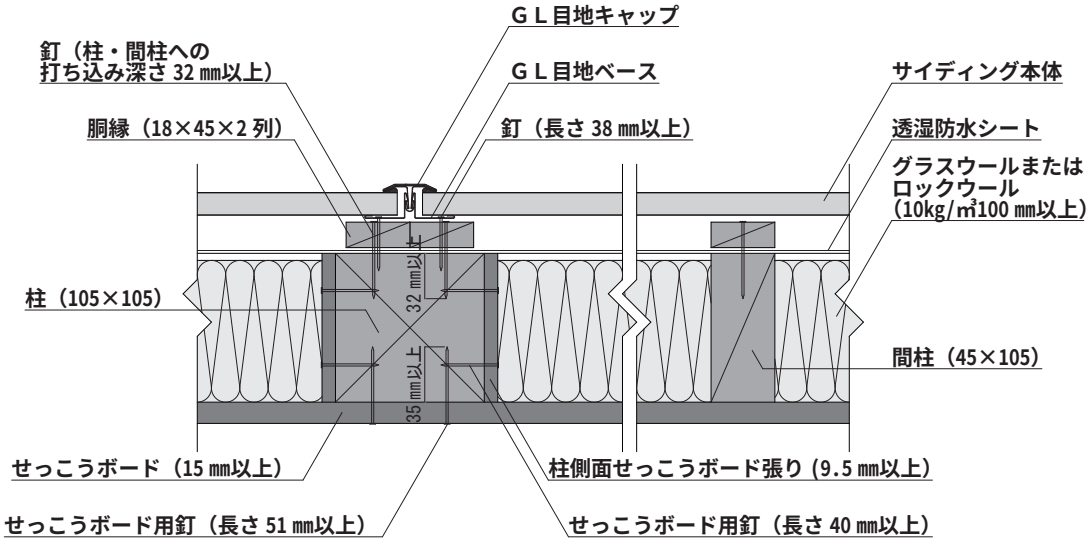
防火認定関係

45 分準耐火構造 （木造下地 軸組構造）：QF045BE-1315

鉛直断面図 **ヨコ張り仕様**



鉛直断面図 **ヨコ張り仕様**



《施工のポイント》

①内装材は下記の通りです。

・せっこうボード厚さ15㎜以上

・せっこうボード厚さ9.5㎜＋12.5㎜以上

②内装材は胴径φ2.45㎜以上、柱・間柱への打ち込み深さ35㎜以上となる釘で留め付けてください。

③室内側にグラスウールまたはロックウール（厚さ100㎜以上、密度10kg/㎥以上）を使用してください。

④柱の側面にせっこうボード（厚さ9.5㎜以上）をせっこうボード用釘（長さ40㎜以上）で留め付けてください。

⑤屋外側に縦胴縁を用い、胴径φ2.15㎜以上、柱・間柱への打ち込み深さ32㎜以上となる釘で留め付け、通気構法でサイディング本体を施工してください。

⑥サイディング本体及び役物は、長さ38㎜以上の釘で留め付けしてください。

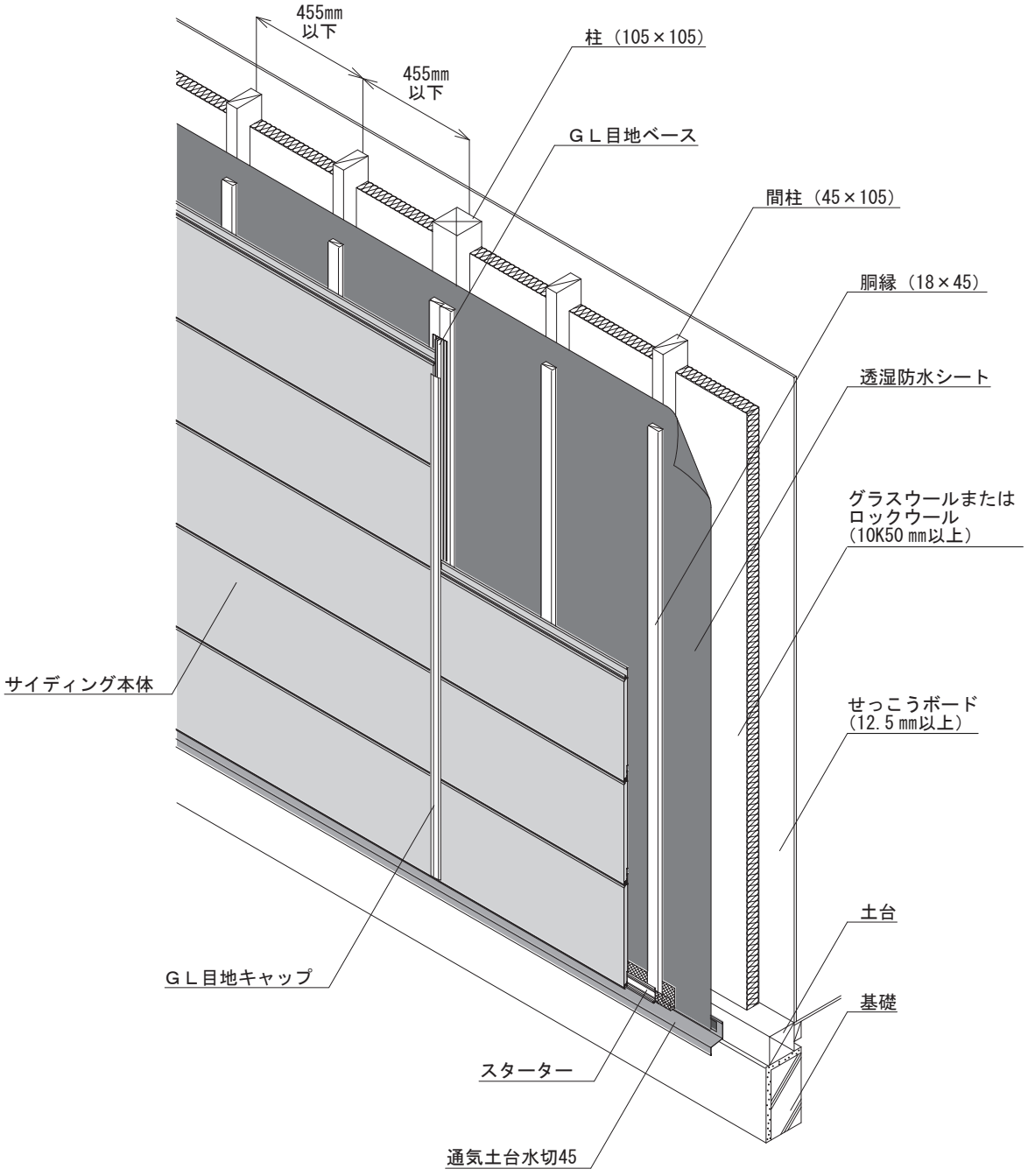
防火認定関係

防火構造（木造下地　軸組構造）: PC030BE-2315

対応製品

石壁グラジェット	スターラインF	くしびき		
輝石グラジェット	スターラインR	ビーボーン		
くしびきグラジェット	スターラインウッド	ブリックＮＥＯ		
輝石	サガン			
輝石マルチ	サガンマルチ			

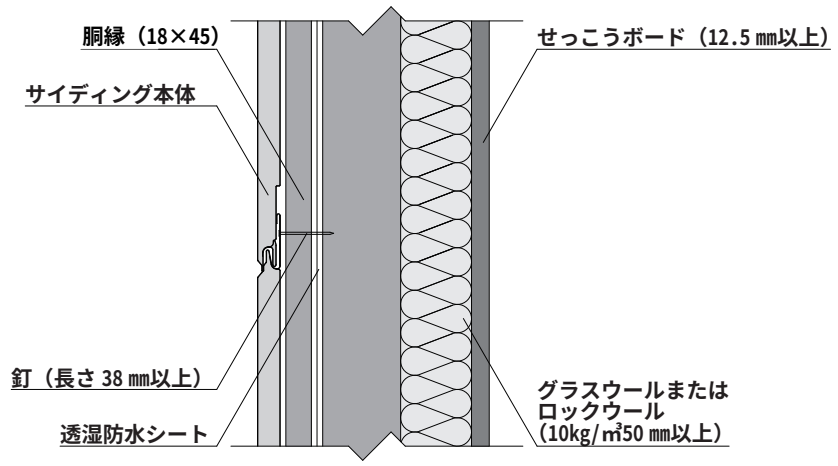
認定納まり図　**ヨコ張り仕様**



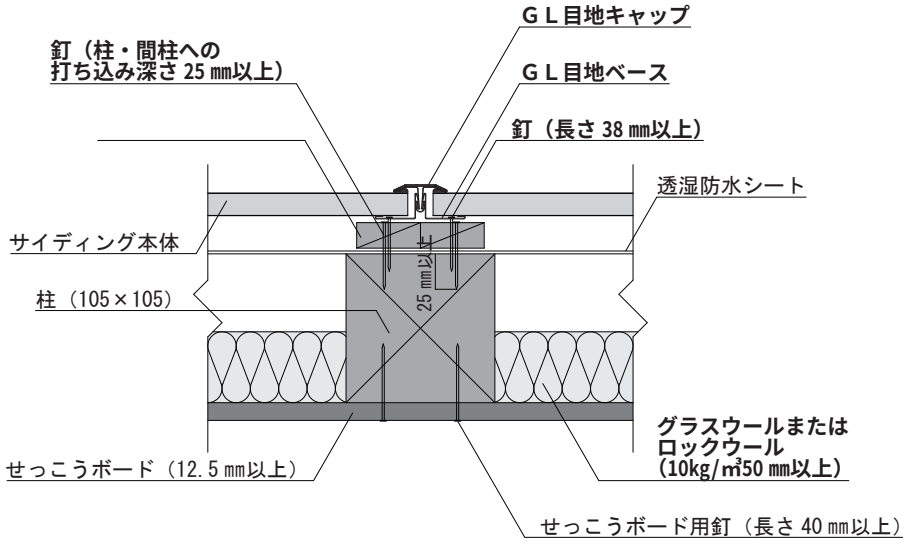
防火認定関係

防火構造（木造下地　軸組構造）: PC030BE-2315

鉛直断面図　**ヨコ張り仕様**



鉛直断面図　**ヨコ張り仕様**



《施工のポイント》

①内装せっこうボードは長さ40㎜以上のせっこうボード用釘で留め付けてください。

②室内側にグラスウールまたはロックウール（厚さ50㎜以上、密度10kg/㎥以上）を使用してください。

③屋外側に縦胴縁を用い、胴径φ2.3㎜以上、長さ38㎜以上、柱・間柱への打ち込み深さ25㎜以上となる釘で留め付け、通気構法でサイディング本体を施工してください。

④サイディング本体及び役物は、長さ38㎜以上の釘で留め付けしてください。

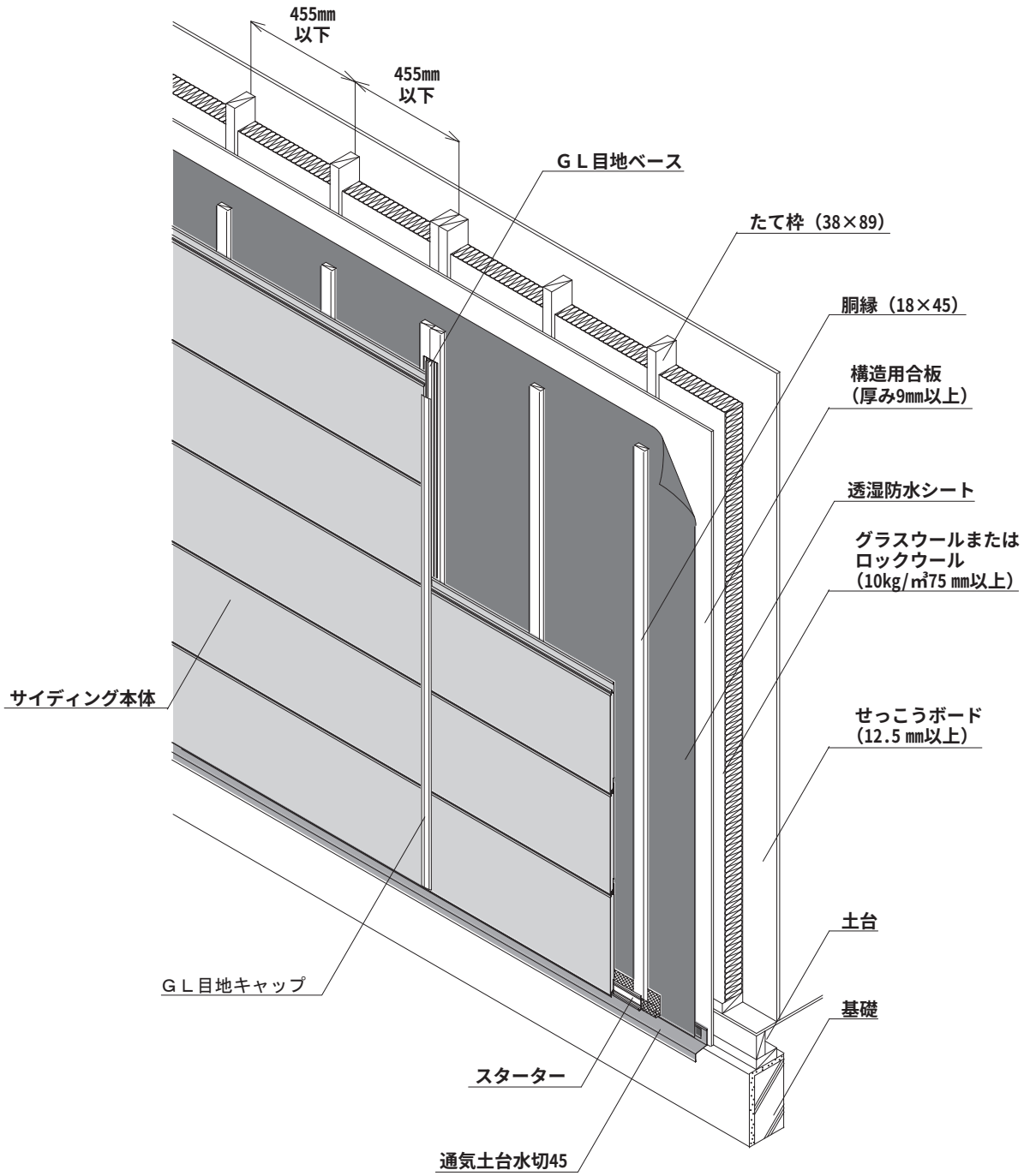
防火認定関係

防火構造（木造下地　枠組構造）: PC030BE-2472

対応製品

石壁グラジェット	スターラインF	くしびき	快星WF	
輝石グラジェット	スターラインR	ビーボーン		
くしびきグラジェット	スターラインウッド	ブリックNEO		
輝石	サガン	快星		
輝石マルチ	サガンマルチ	快星もくめ		

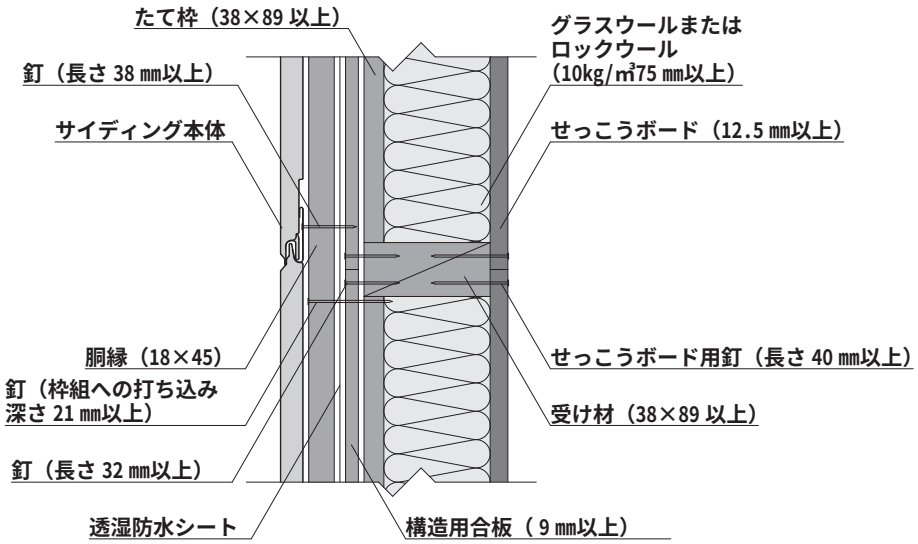
認定納まり図　**ヨコ張り仕様**



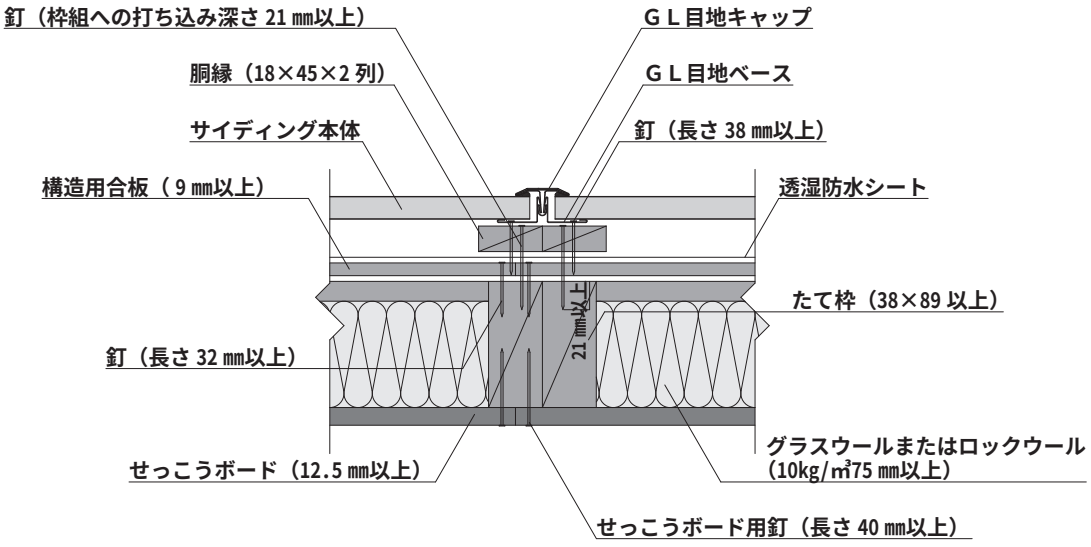
防火認定関係

防火構造（木造下地　枠組構造）: PC030BE-2472

鉛直断面図　**ヨコ張り仕様**



鉛直断面図　**ヨコ張り仕様**



《施工のポイント》

①内装せっこうボードは長さ40㎜以上のせっこうボード用釘で留め付けてください。

②室内側にグラスウールまたはロックウール（厚さ75㎜以上、密度10kg/㎥以上）を使用してください。

③枠組の躯体のたて枠間隔は455㎜以下とし、9㎜以上の構造用合板を長さ32㎜以上の釘で張り付けてください。

④屋外側に縦胴縁を用い、胴径φ2.15㎜以上、枠組への打ち込み深さ21㎜以上となる釘で留め付け、通気構法で
サイディング本体を施工してください。

④サイディング本体及び役物は、長さ38㎜以上の釘で留め付けしてください。

設計・施工のポイント

ヨコ張り タテ張り

施工に必要な工具

留め付け材

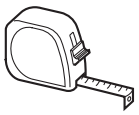
・金属サイディングを木造下地に留め付ける際は、スチール製の釘を使用してください。

・留め付け材の長さは各防耐火構造認定に従い、防耐火構造認定を使用しない場合は下記を参照してください。

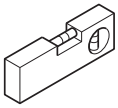
釘	●鉄丸釘　N38以上 ●スクリュー釘　φ2.2×38mm以上

基準墨出に使用する工具

●巻尺



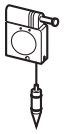
●水平器



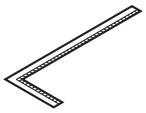
●墨壷

●チョークライン

●下げ振り

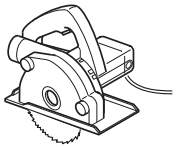


●短尺

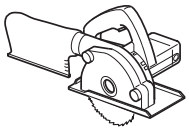


切断時に使用する工具

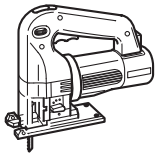
●電動丸のこ



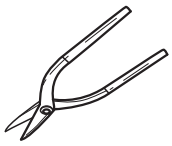
●防じん丸のこ



●ジグソー



●金ばさみ（縦刃、柳刃）



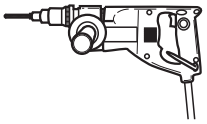
●保護めがね

取り付け工具

●リベッター

●ドリルドライバー

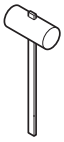
●ホールソー



●つかみ

●釘締め

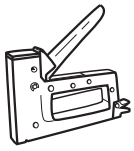
●木槌



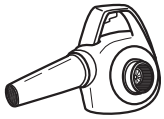
●金槌

その他の工具類

●タッカー

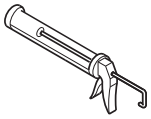


●ブロワー

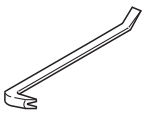


●はけ

●コーキングガン



●釘抜き



●カッター

●コードリール

設計・施工のポイント

施工手順

ヨコ張り

①割り付け

・材料ロスと外観を考慮して、あらかじめ割り付けを行い、本体と付属品の必要数量を算出してください。

②下地躯体の確認・・・18ページ

・著しい不陸がないことをご確認ください。
・入隅部の添え柱など胴縁の取り付けが確保できる下地を確認してください。

③土台部水切の施工・・・19ページ

・水平基準線を墨出しした上で取り付けてください。

④透湿防水シート張り・・・19ページ

・所定の重ね合わせ代をとった上で、やぶれ、しわのないように施工してください。
・開口部周囲、土台部は両面防水テープを施工した上で張ってください。

⑤胴縁の施工・・・20ページ

・胴縁は柱・間柱の上に455㎜以下の間隔で取り付けてください。
・出隅部の片面、目地ジョイナー部、入隅部は役物取り付けのため、幅90㎜以上の胴縁を使用してください。

⑥ベース役物の施工・・・21～23ページ

⑦スターター、軒天笠木の施工・・・21～23ページ

・水平、垂直を確認の上、取り付けてください。

⑧開口部役物の施工・・・24～25ページ

・万が一雨水が浸入した場合の排水を考慮して、施工手順に沿って取り付けてください。

⑨本体の施工・・・26ページ

・本体は胴縁間隔でオス側の釘打ち部に釘打ちしてください。
・切断は本体表面の傷付きを防止するため、裏面から行ってください。
・切断時のバリ、切粉は必ず除去してください。

⑩キャップ役物の施工・・・27～29ページ

⑪開口部の仕上げ・・・30ページ

⑫シーリングの施工・・・27～29ページ

・天候、気温、湿気にご注意ください。
・マスキングテープを張り付けた上で、専用のシーリング材をご使用ください。

⑬補修、点検、清掃・・・44ページ

・廃材は産業廃棄物として適切に処理してください。

設計・施工のポイント（ヨコ張り）

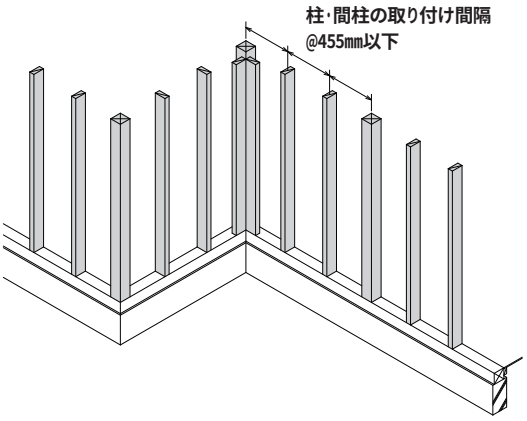
下地躯体の確認

※弊社の標準施工法である当工法に反した施工クレーム物件については責任を負いかねます。

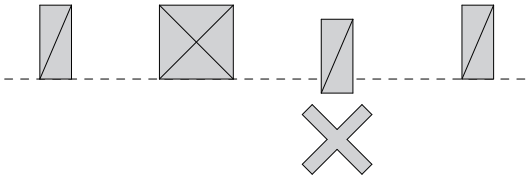
躯体の間隔

・柱、間柱間隔は455㎜以下としてください。

・出隅、入隅、目地ジョイナー部では、胴縁の取り付け面を確保してください。

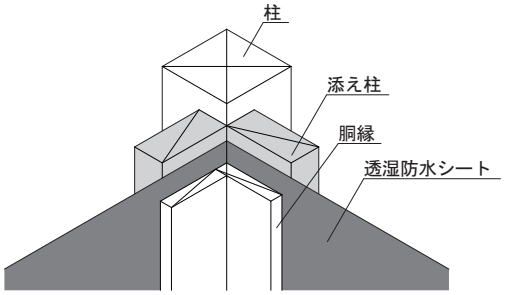


・下地に不陸、ボルトや金具類の突出し物がないことを確認してください。



添え柱の取り付け

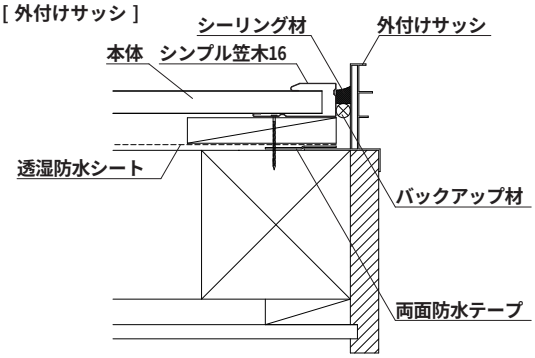
・入隅部には胴縁を取り付けるため、添え柱を取り付けてください。



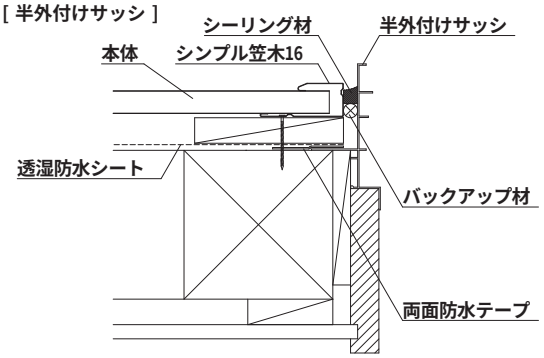
サッシの種類

・笠木などの役物の納まりを考慮して、外付けサッシまたは、半外付けサッシを使用してください。

[外付けサッシ]



[半外付けサッシ]

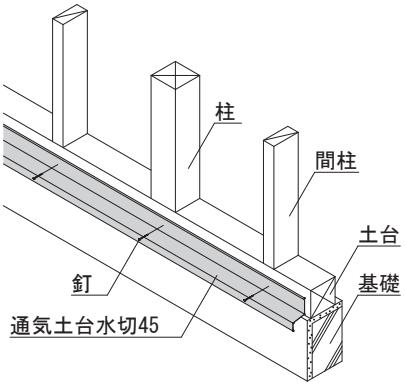


設計・施工のポイント

土台水切の取り付け ⇒ 透湿防水シート張り

土台通気水切の取り付け

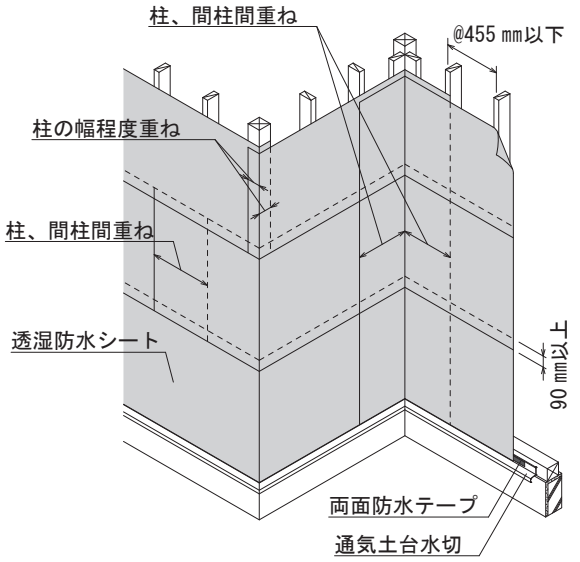
・通気土台水切45を土台に、柱・間柱の間隔で取り付けてください。
・積雪の多い地域では、通気土台水切45の下に当て木を入れるなどして、対処してください。
・通気土台水切45は胴縁、透湿防水シートを施工する前に取りつけてください。



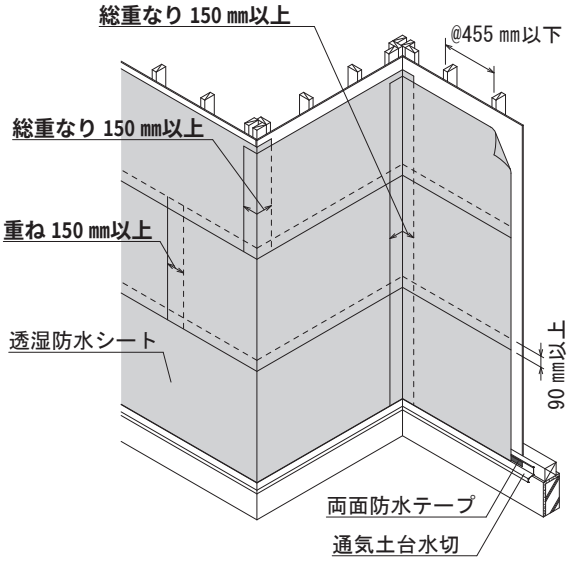
透湿防水シート張り

・透湿防水シートの張り方は横張りで、下から上へと張り上げてください。
・通気土台水切45と透湿防水シートとの間は両面防水テープで貼り合わせてください。
・上下の重ね代は90㎜以上とし、左右の重ね合わせ代は下図を参照してください。

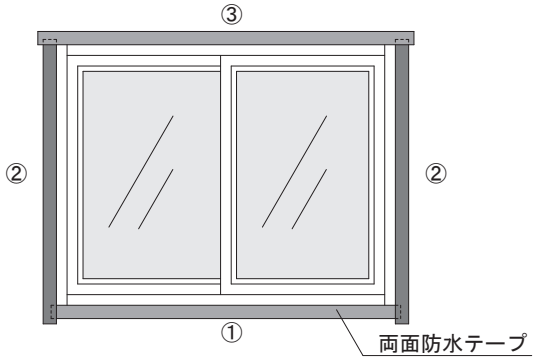
［軸組構造の場合］
・上下90㎜以上、左右は柱（間柱）と柱（間柱）の重ね合わせ代を設けてください。
（左右の重ねは必ず、柱・間柱に留めてください）



［枠組構造の場合］
・上下90㎜以上、左右150㎜以上の重ね合わせ代を設けてください。



・開口部まわりは右図の順番でサッシ枠に両面防水テープを貼ってください。



設計・施工のポイント

胴縁の施工

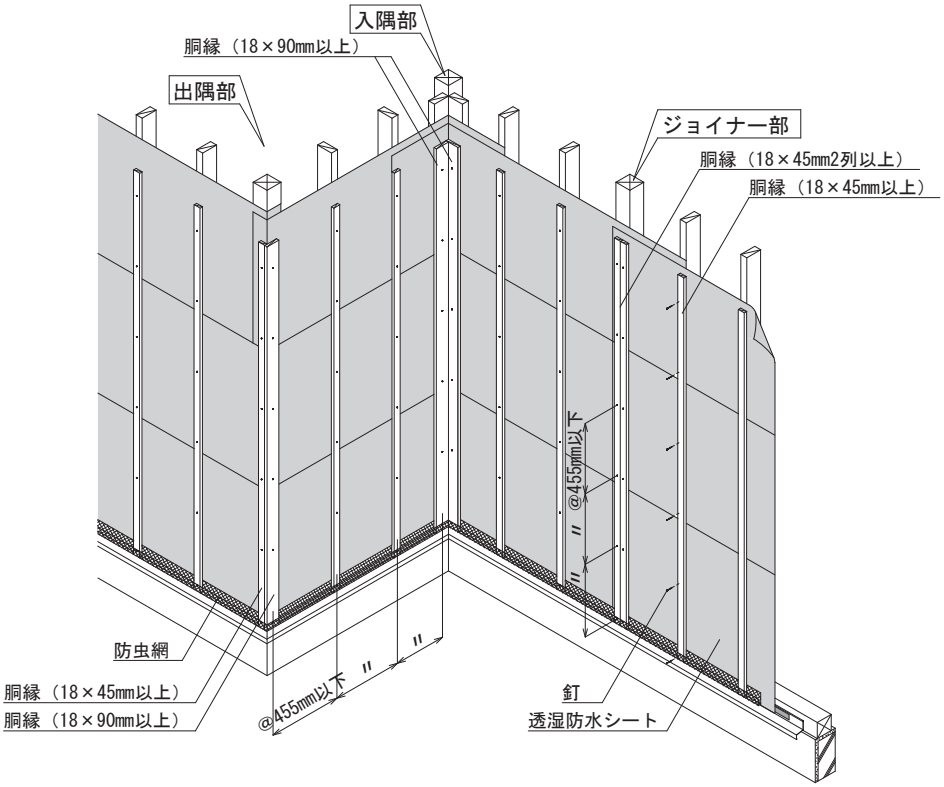
胴縁の施工

・胴縁は柱、間柱に455㎜以下の間隔で取り付けてください。

・釘の留め付け間隔は、455㎜以下としてください。

・出隅部の片側、入隅部の胴縁は、役物を取り付ける必要がありますので、幅90㎜以上のものを使用してください。

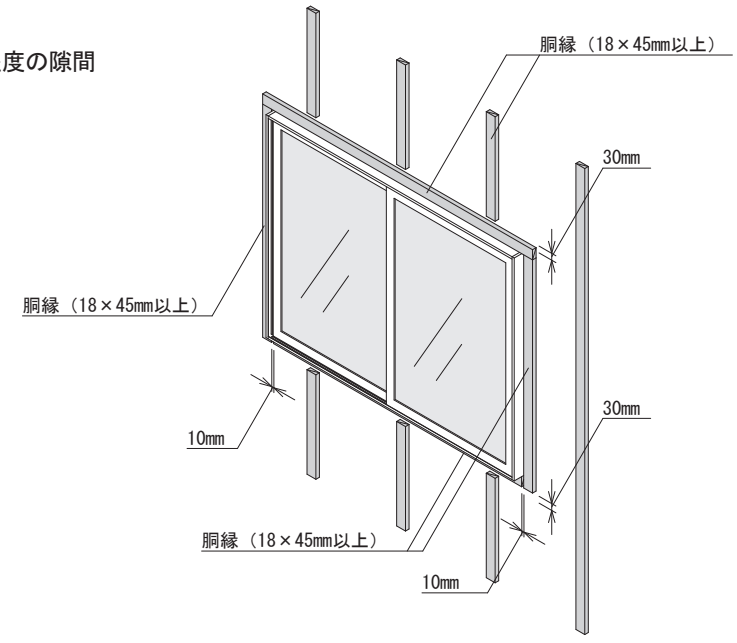
・基礎部の胴縁下端は、小動物や虫の侵入を防ぐために、防虫網などを処理することをおすすめします。



開口部の胴縁施工

・開口部の胴縁は通気を妨げないように30㎜程度の隙間を設けてください。

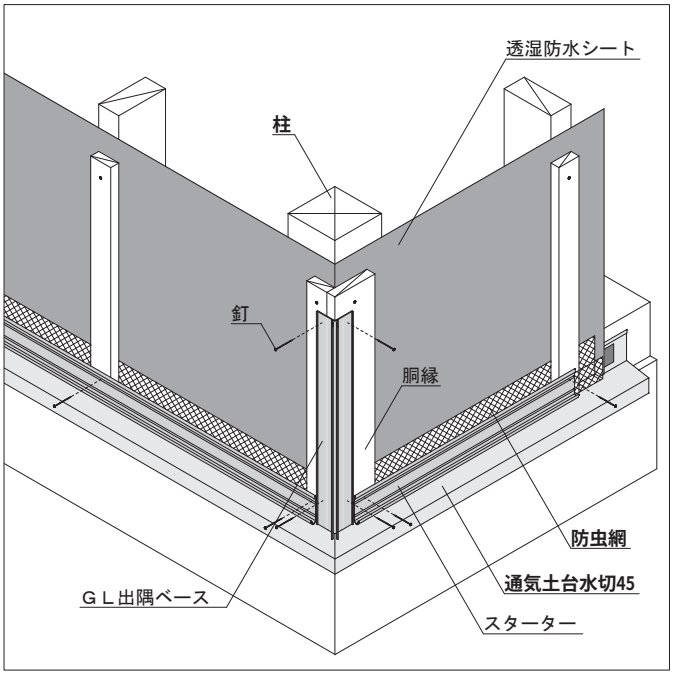
・開口部下側の胴縁と開口部左右の胴縁は、10㎜程度の隙間を設けてください。



出隅部の施工

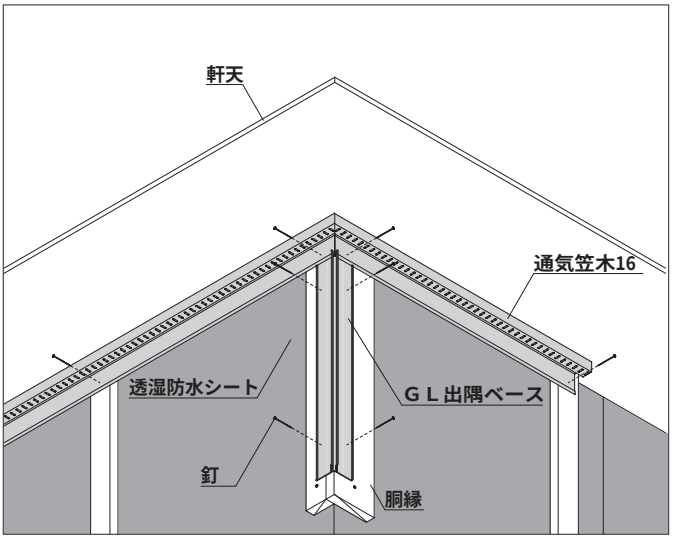
出隅土台部の施工

・スターター、ＧＬ出隅ベースを各胴縁上に施工してください。
・スターターの下端と水切の間には、雨水が排出できるよう10㎜程度の隙間をあけてください。
・釘の留め付けは、スターターは縦胴縁間隔に、ＧＬ出隅ベースは455㎜以下の間隔としてください。



出隅軒天部の施工

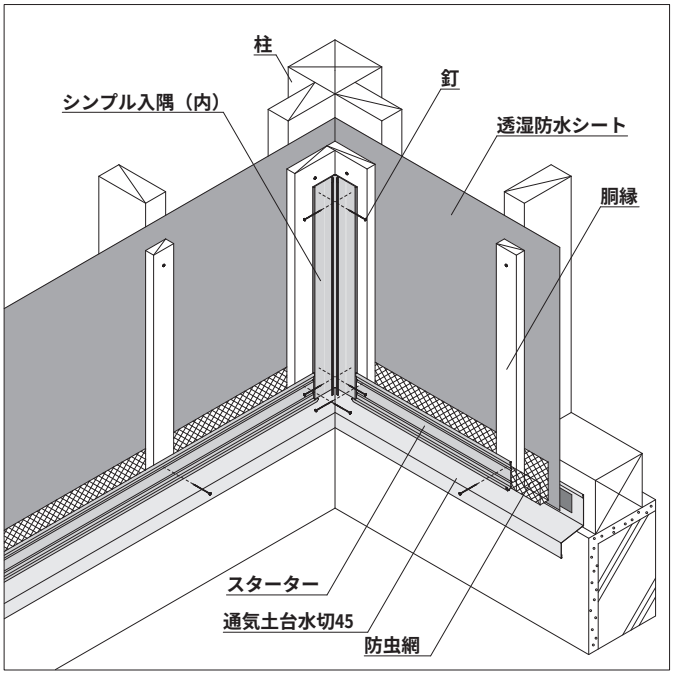
・通気笠木16、ＧＬ出隅ベースを各胴縁上に施工してください。
・釘の留め付けは、通気笠木16は縦胴縁間隔に、ＧＬ出隅ベースは455㎜以下の間隔としてください。



入隅部の施工

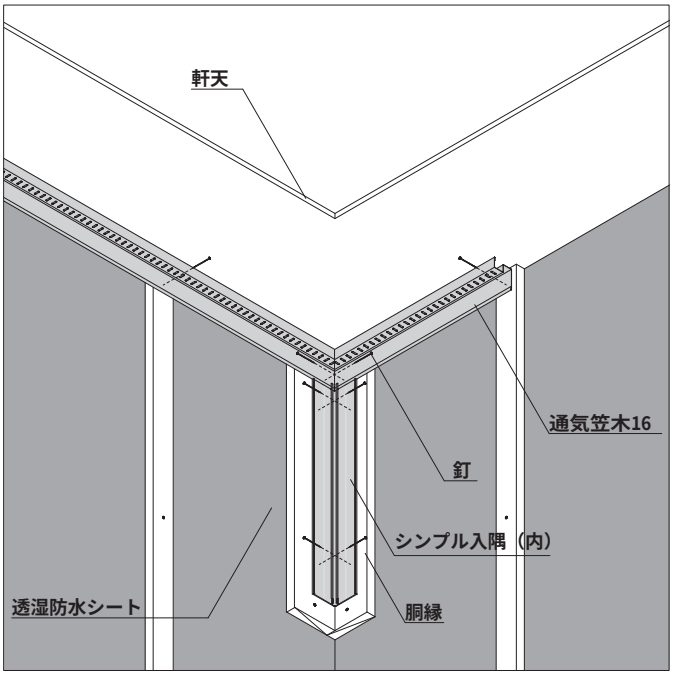
入隅土台部の施工

・スターター、シンプル入隅（内）を各胴縁上に施工してください。
・スターターの下端と水切の間には、雨水が排出できるよう10㎜程度の隙間をあけてください。
・釘の留め付けは、スターターは縦胴縁間隔に、シンプル入隅（内）は455㎜以下の間隔としてください。



入隅軒天部の施工

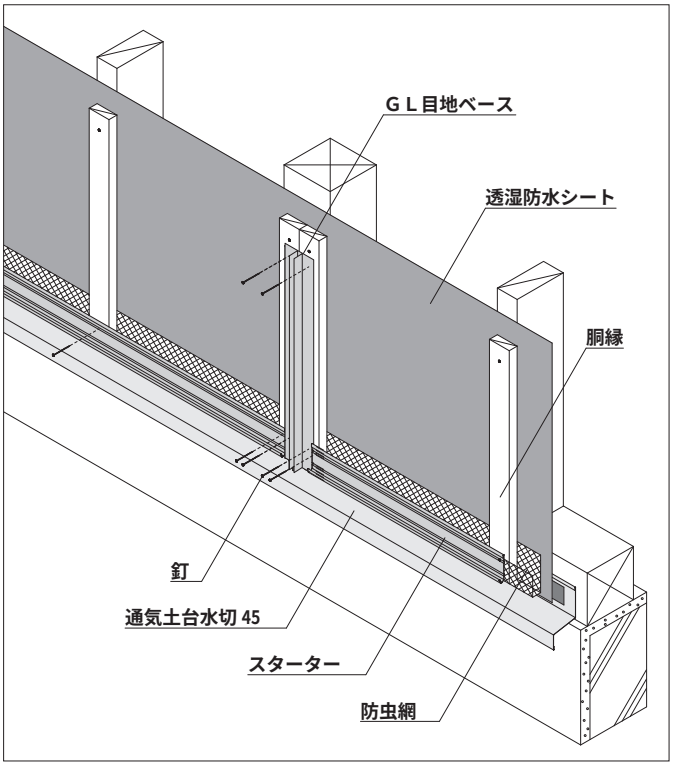
・通気笠木16、シンプル入隅（内）を各胴縁上に施工してください。
・釘の留め付けは、通気笠木16は縦胴縁間隔に、シンプル入隅（内）は455㎜以下の間隔としてください。



目地部の施工 （ベース）

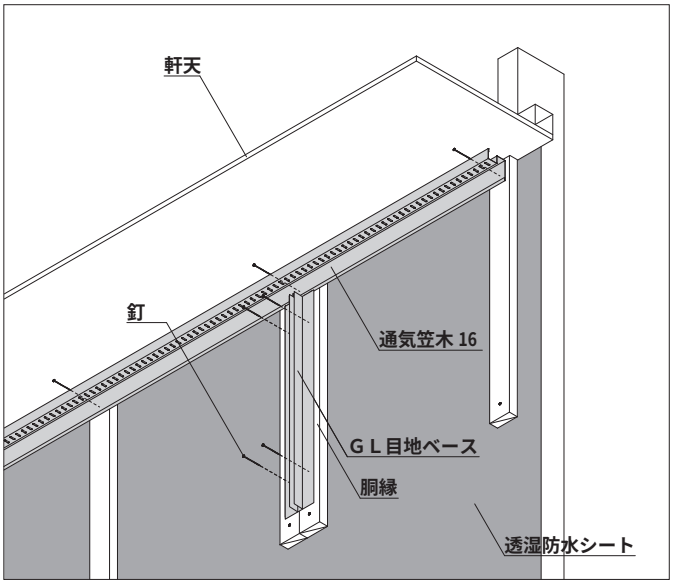
目地土台部の施工

・スターター、ＧＬ目地ベースを各胴縁上に施工してください。
・スターターの下端と水切の間には、雨水が排出できるよう10㎜程度の隙間をあけてください。
・釘の留め付けは、スターターは縦胴縁間隔に、ＧＬ目地ベースは455㎜以下の間隔としてください。



目地軒天部の施工

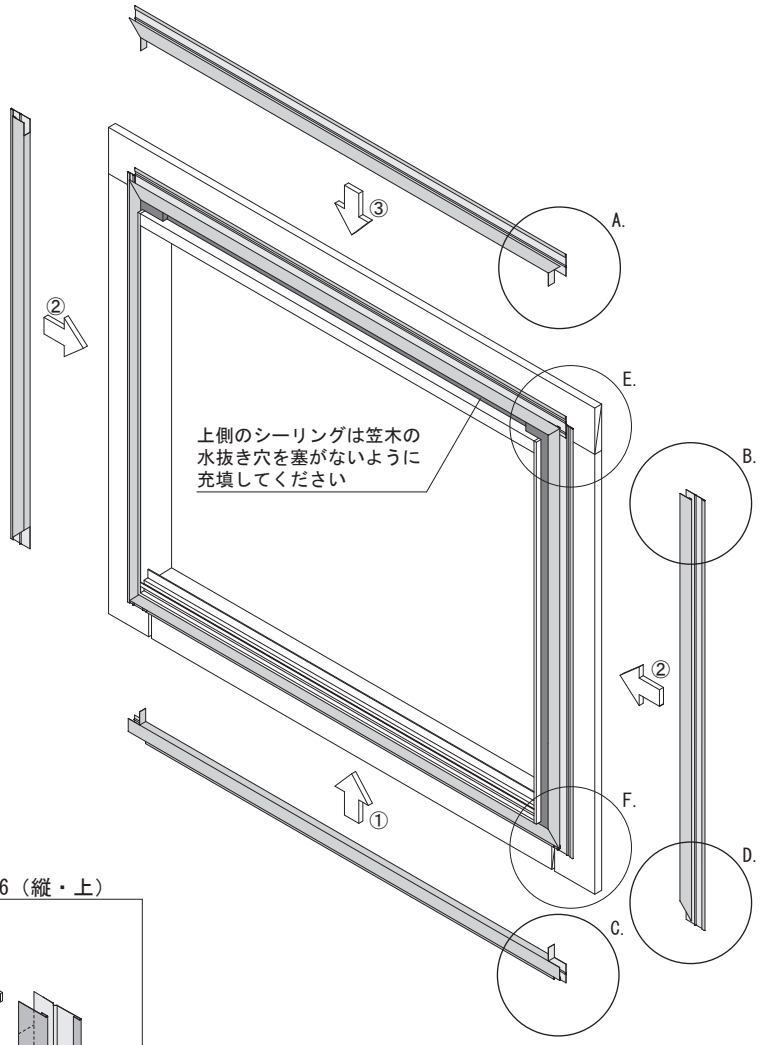
・通気笠木16、ＧＬ目地ベースを各胴縁上に施工してください。
・釘の留め付けは、通気笠木16は縦胴縁間隔に、ＧＬ目地ベースは455㎜以下の間隔としてください。



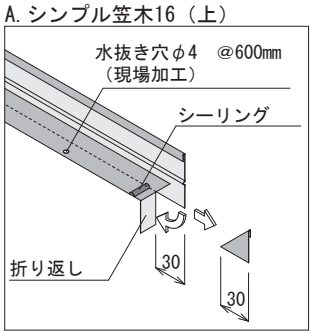
開口部廻りの役物施工

開口部廻りの施工

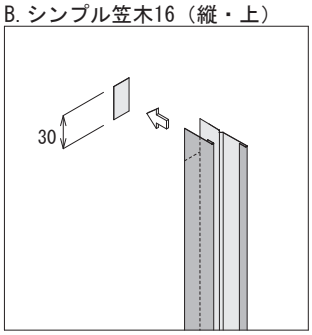
・開口部廻りには、シンプル笠木16を下図のように加工して①～③の順序で施工してください。
・開口部上部のシンプル笠木16には、φ6㎜以上の水抜き穴を600㎜程度の間隔で開けてください。（図A. 参照）
・開口部上部のシンプル笠木16木には、両端部の内側底部にシーリングを施工してください。（図A. 参照）
・切り欠いたシンプル笠木16同士の重ね部分には、止水のために捨てシーリングを施工してください。（図E. F. 参照）
・シンプル笠木はサッシ枠から10㎜程度あけて、シーリング代を確保して施工してください。



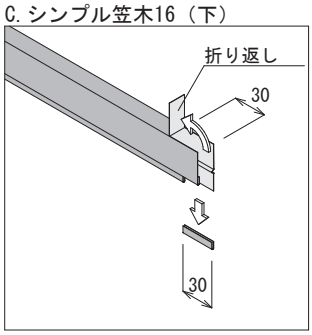
A. シンプル笠木16（上）



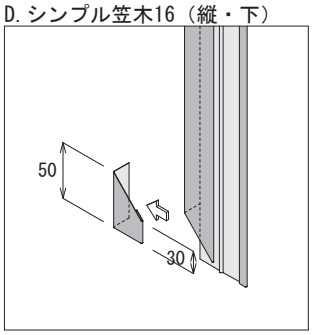
B. シンプル笠木16（縦・上）



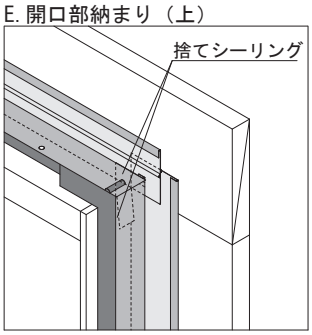
C. シンプル笠木16（下）



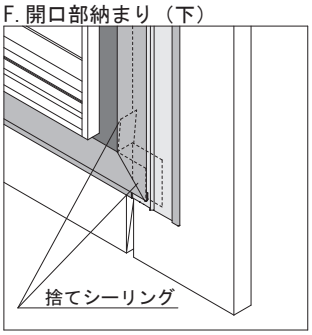
D. シンプル笠木16（縦・下）



E. 開口部納まり（上）



F. 開口部納まり（下）



設計・施工のポイント

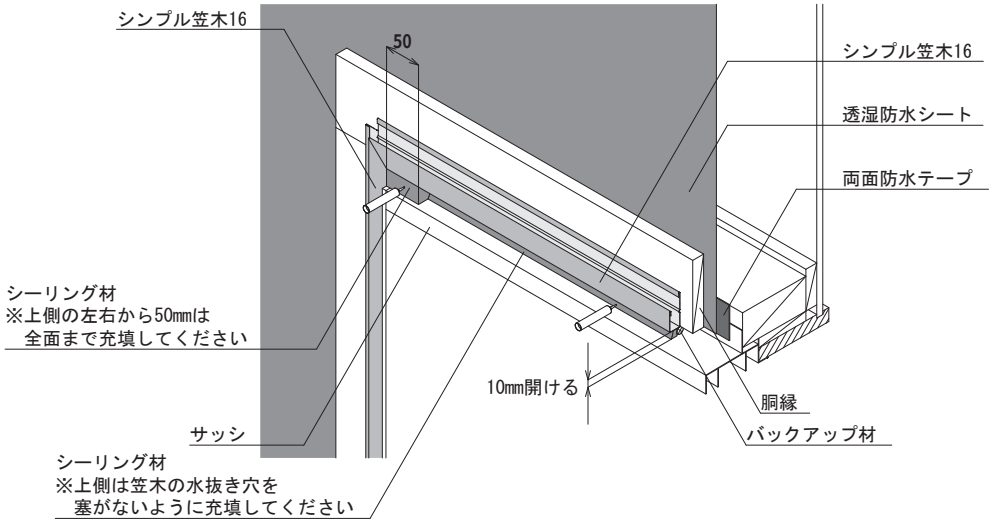
開口部の防水処理

開口部シーリング

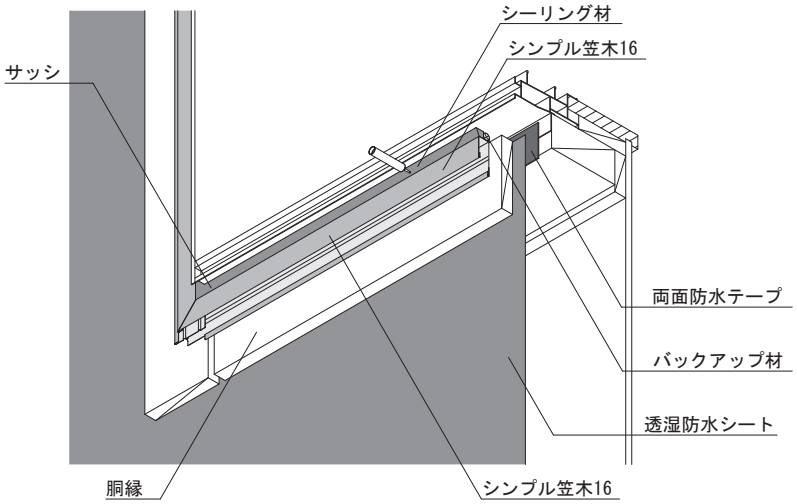
・サイディング本体取り付け後、サッシ枠とシンプル笠木16の隙間に必ずシーリングを行ってください。

・上側のシーリングは笠木の水抜き穴を塞がないように充填してください。

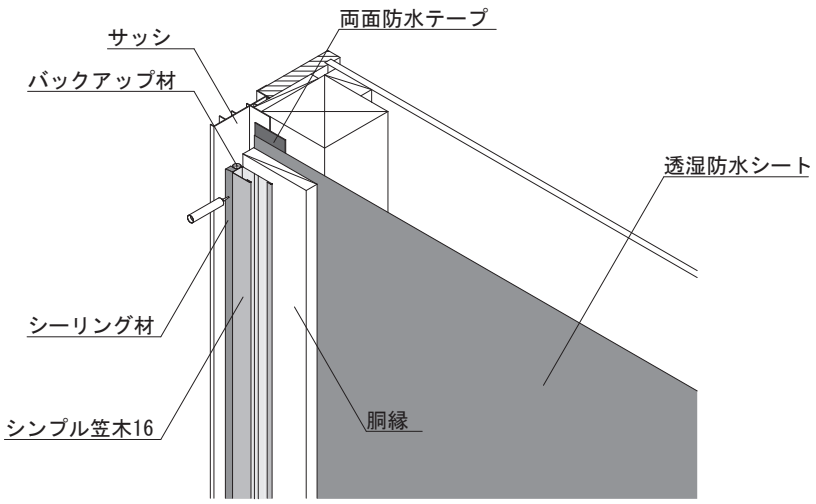
開口部　上



開口部　下



開口部　左右

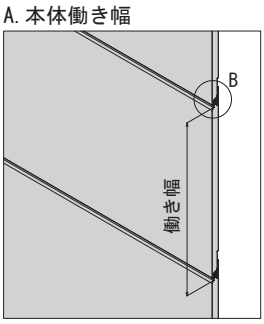


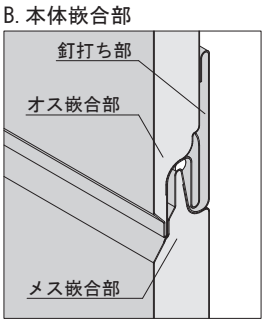
設計・施工のポイント

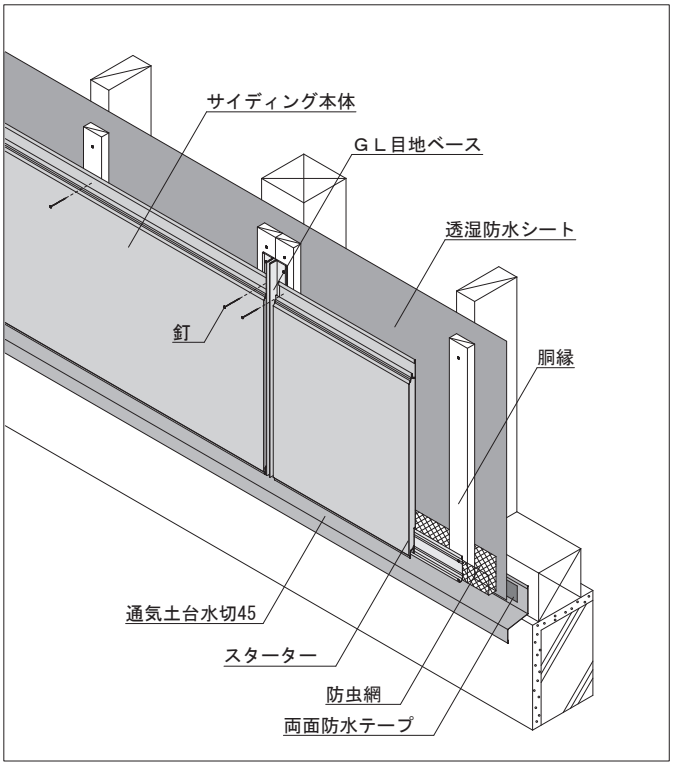
サイディング本体の施工

本体土台部の施工

・各先付け役物類が施工されていることを確認後、墨出し線に合わせて本体の施工を行ってください。
・本体1枚目のメス側をスターターに差込み、オス側の釘打ち部に釘で留めてください。
・釘の留め付けは、縦胴縁に455㎜以下の間隔としてください。
・本体2枚目以降は、オス側とメス側を確実に差込み、働き幅に合わせて施工してください。

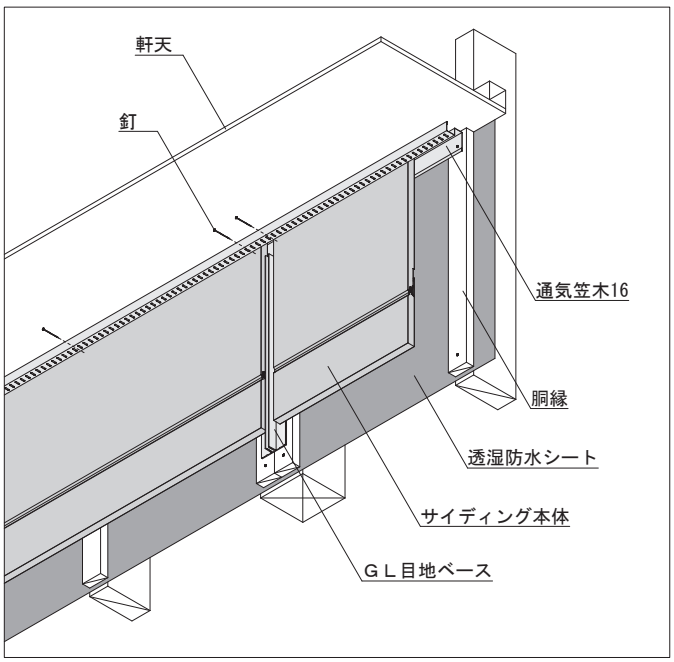






本体軒天部の施工

・本体最上段は、通気笠木16の上端まで差込み、下の本体に落とし込んで嵌合させてください。
・本体最上段は、通気笠木16への差込み、および落とし込みを行うため、採寸時にはご注意ください。
・本体最上段を釘で脳天打ちして留め付けてください。
・釘の留め付けは、縦胴縁に455㎜以下の間隔としてください。

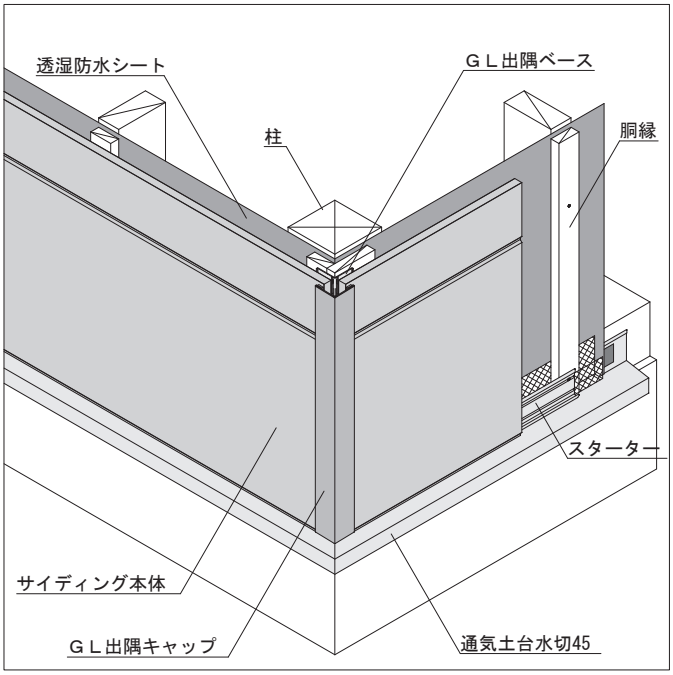


出隅部の施工（キャップ）

出隅土台部の施工

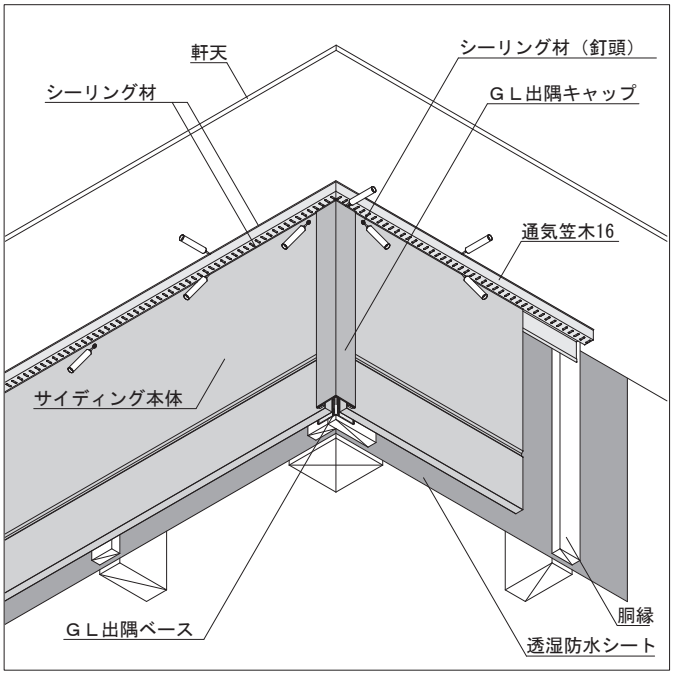
・出隅キャップの下端をサイディング本体の下端で揃えて、下から上へＧＬ出隅ベースと嵌合させてください。

・キャップ裏面に防水シールが貼り付けているもので保護紙が付いている場合は、保護紙を剥がしてからベースと嵌合させてください。
・キャップ裏面に防水シールが貼り付けていないものは、サイディング本体とキャップの重ね部分に捨てシーリングを行ってください。



出隅軒天部の施工

・通気笠木16の下端と出隅キャップの上端の位置を揃うようにＧＬ出隅ベースと嵌合させてください。
・下記の箇所にシーリングを行ってください。
①軒天と通気笠木16
②通気笠木16とサイディング本体
③通気笠木16と出隅キャップ上端
④脳天打ちした釘頭
・キャップ裏面に防水シールが貼り付けているもので保護紙が付いている場合は、保護紙を剥がしてからベースと嵌合させてください。
・キャップ裏面に防水シールが貼り付けていないものは、サイディング本体とキャップの重ね部分に捨てシーリングを行ってください。

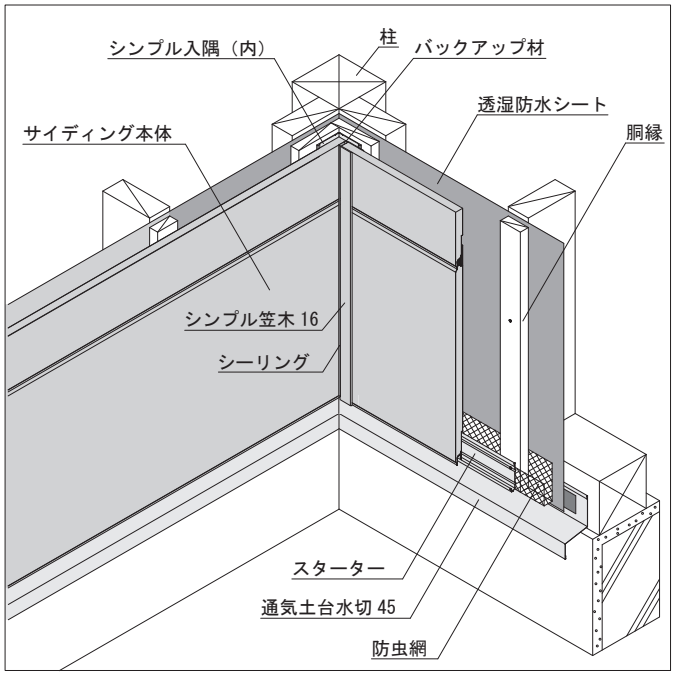


入隅部の施工

入隅土台部の施工

・片側の壁のサイディング本体を施工後、サイディング本体の表面から約10㎜の隙間を空けて、シンプル笠木16を施工し、残る片側のサイディング本体を施工してください。

・サイディング本体表面とシンプル笠木16の隙間にφ10㎜のバックアップ材を差し込み、上からシーリングを行ってください。



入隅軒天部の施工

・通気笠木16の下端とシンプル笠木16の上端の位置を揃うように施工してください。

・下記の箇所にシーリングを行ってください。

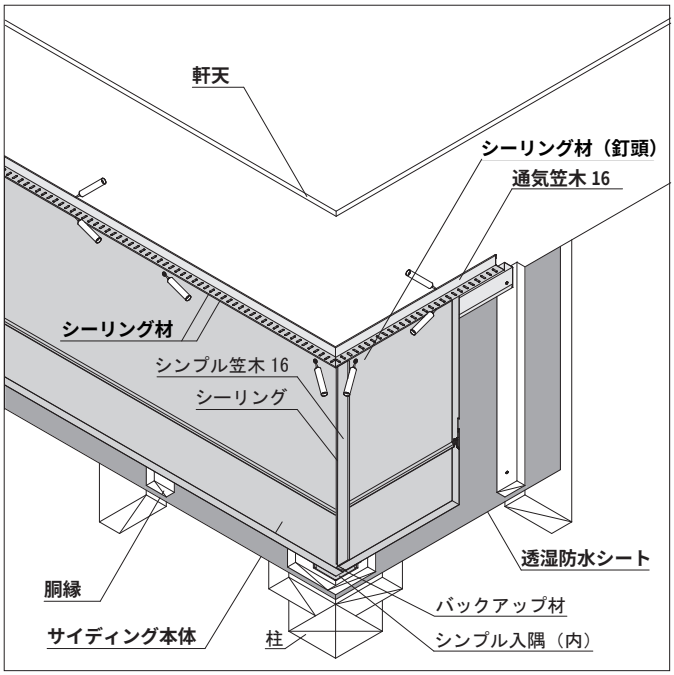
①軒天と通気笠木16

②通気笠木16とサイディング本体

③通気笠木16とシンプル笠木16上端

④脳天打ちした釘頭

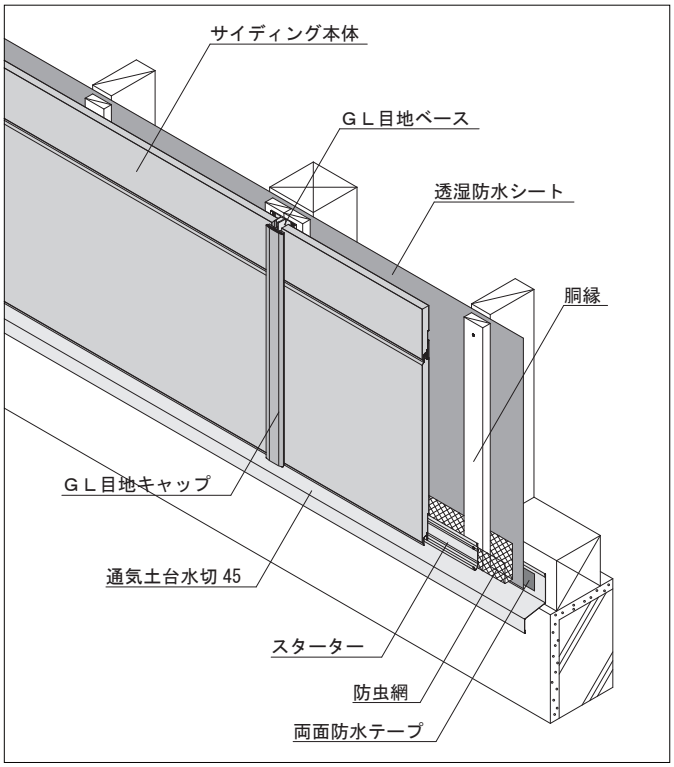
⑤サイディング本体とシンプル笠木16



目地部の施工 (キャップ)

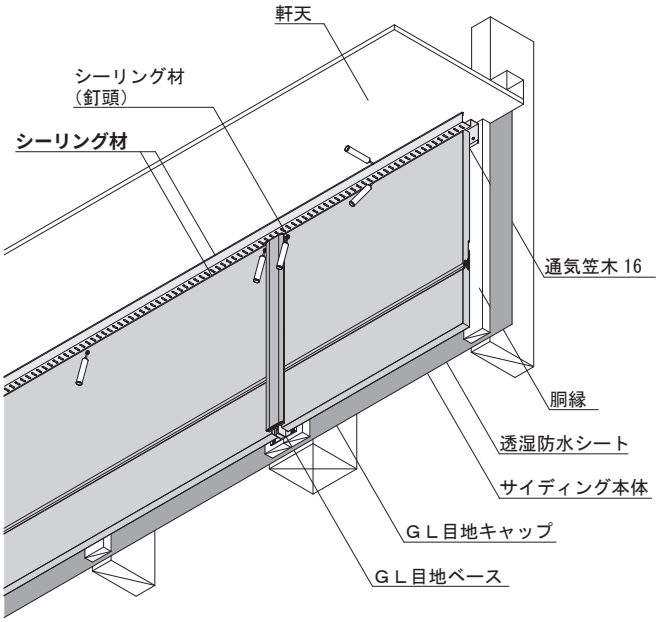
目地土台部の施工

・ＧＬ目地キャップの下端をサイディング本体の下端で揃えて、下から上へＧＬ目地ベースと嵌合させてください。
・サイディング本体とキャップの重ね部分には、捨てシーリングを行ってください。



目地軒天部の施工

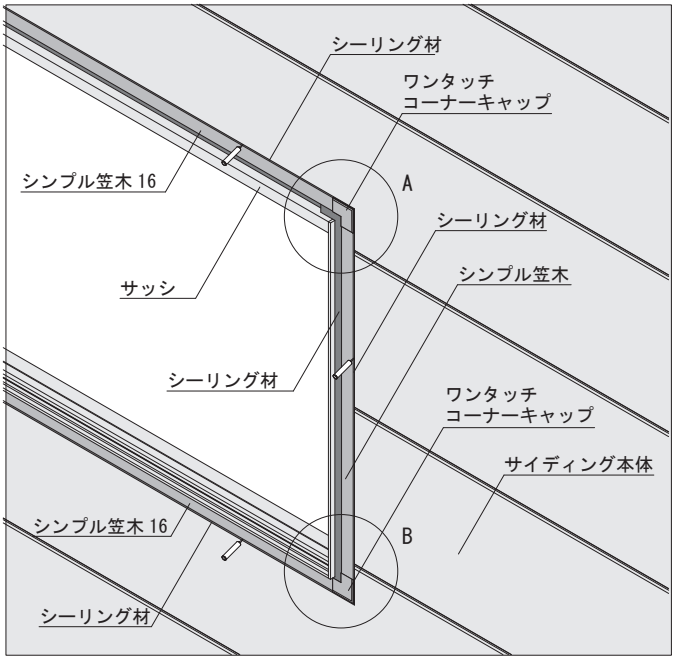
・通気笠木16の下端とＧＬ目地キャップの上端の位置を揃うようにＧＬ目地ベースと嵌合させてください。
・下記の箇所にシーリングを行ってください。
①軒天と通気笠木16
②通気笠木16とサイディング本体
③通気笠木16とＧＬ目地キャップ上端
④脳天打ちした釘頭
・サイディング本体とキャップの重ね部分には、捨てシーリングを行ってください。



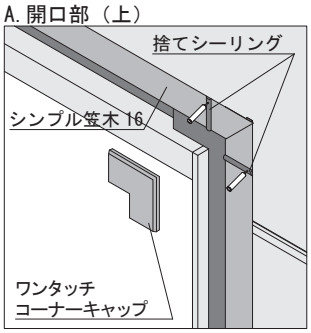
開口部の仕上げ

開口部の施工

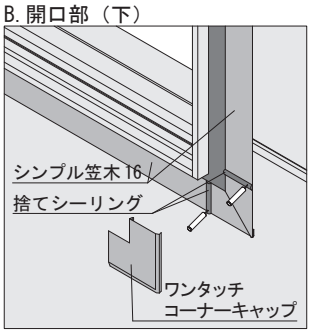
・シンプル笠木16の中にサイディング本体を差し込んでください。
・シンプル笠木16と本体の隙間にシーリングを行ってください。
・開口部コーナーは、捨てシーリングを行った上で、ワンタッチコーナーキャップを取り付けてください。



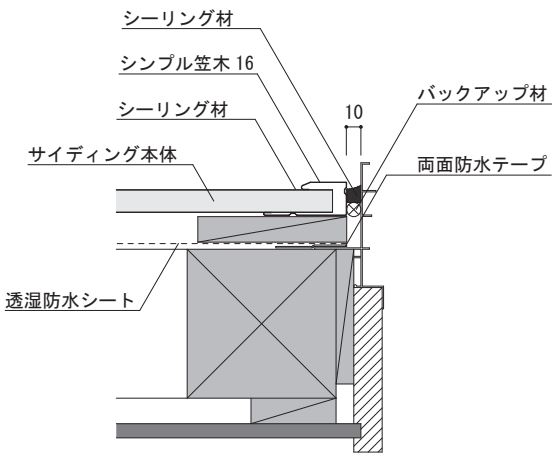
A. 開口部（上）



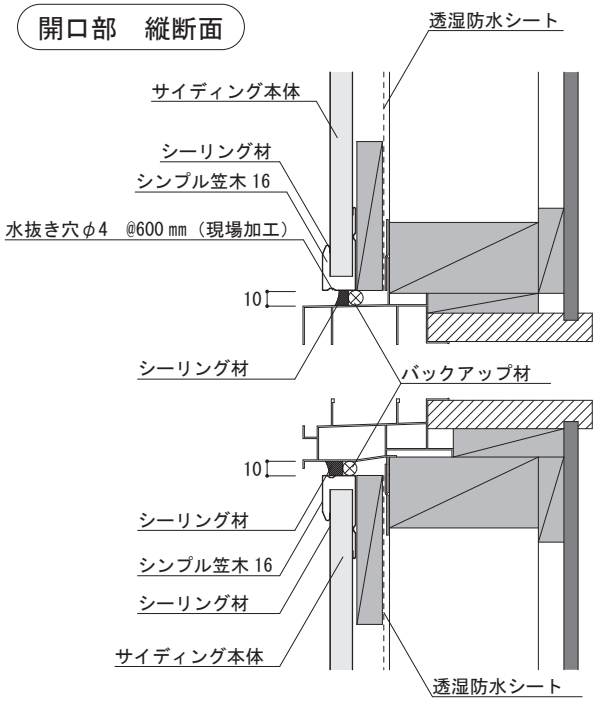
B. 開口部（下）



開口部　横断面



開口部　縦断面



設計・施工のポイント

タテ張り

施工手順

タテ張り

①割り付け

・材料ロスと外観を考慮して、あらかじめ割り付けを行い、本体と付属品の必要数量を算出してください。

②下地躯体の確認・・・32ページ

・著しい不陸がないことをご確認ください。
・入隅部の添え柱など胴縁の取り付けが確保できる下地を確認してください。

③土台部水切の施工・・・33ページ

・水平基準線を墨出しした上で取り付けてください。

④透湿防水シート張り・・・33ページ

・所定の重ね合わせ代をとった上で、やぶれ、しわのないように施工してください。
・開口部周囲、土台部は両面防水テープを施工した上で張ってください。

⑤胴縁の施工・・・34ページ

・出隅縦胴縁を先行して施工してください。
・胴縁は柱・間柱の上に455㎜以下の間隔で取り付けてください。
・土台部、中間部は役物取り付けのため、幅90㎜以上の胴縁を使用してください。

⑥ベース役物の施工・・・35～36ページ

⑦端部カバー、軒天笠木の施工・・・35～36ページ

・水平、垂直を確認の上、取り付けてください。

⑧開口部役物の施工・・・37～38ページ

・万が一雨水が浸入した場合の排水を考慮して、施工手順に沿って取り付けてください。

⑨本体、中間部の施工・・・39～40ページ

・１階の施工後、中間部分の水切を取り付け、２階の本体を施工してください。
・本体は胴縁間隔でオス側の釘打ち部に釘打ちしてください
・切断は本体表面の傷付きを防止するため、裏面から行ってください。
・切断時のバリ、切粉は必ず除去してください。

⑩キャップ役物の施工・・・41～42ページ

⑪開口部の仕上げ・・・43ページ

⑫シーリングの施工・・・41～43ページ

・天候、気温、湿気にご注意ください。
・マスキングテープを張り付けた上で、専用のシーリング材をご使用ください。

⑬補修、点検、清掃・・・44ページ

・廃材は産業廃棄物として適切に処理してください。

設計・施工のポイント（タテ張り）

タテ張り

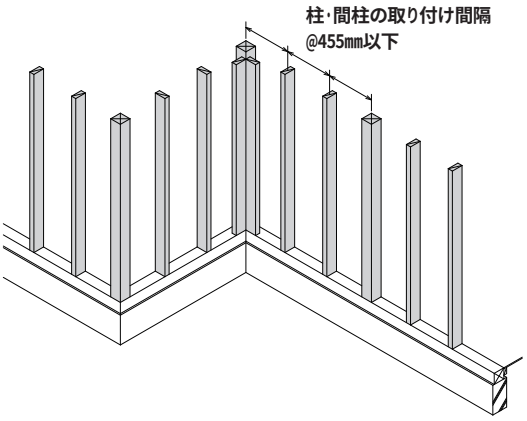
下地躯体の確認

※弊社の標準施工法である当工法に反した施工クレーム物件については責任を負いかねます。

躯体の間隔

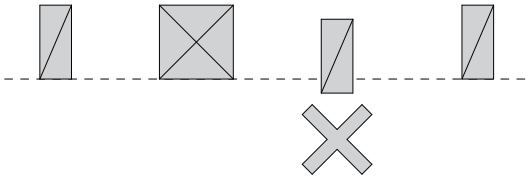
・柱、間柱間隔は455㎜以下としてください。

・出隅、入隅、目地ジョイナー部では、胴縁の取り付け面を確保してください。



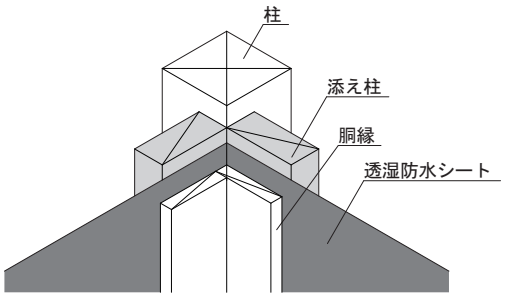
躯体の不陸

・下地に不陸、ボルトや金具類の突出し物がないことを確認してください。



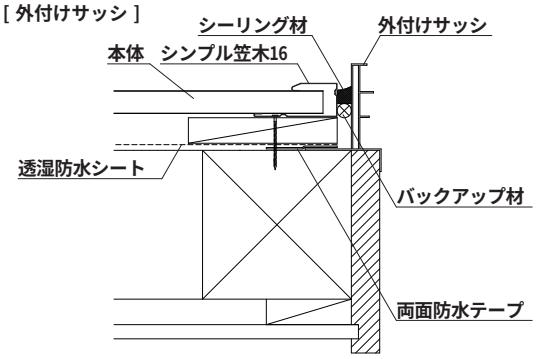
添え柱の取り付け

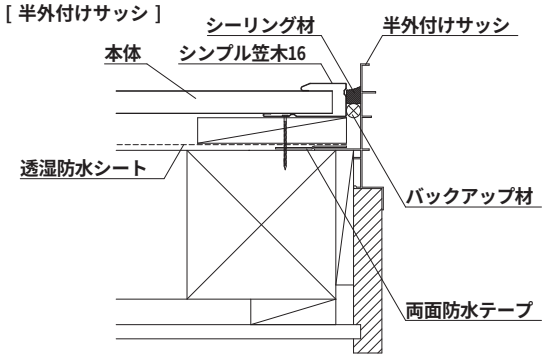
・入隅部には胴縁を取り付けるため、添え柱を取り付けてください。



サッシの種類

・笠木などの役物の納まりを考慮して、外付けサッシまたは、半外付けサッシを使用してください。



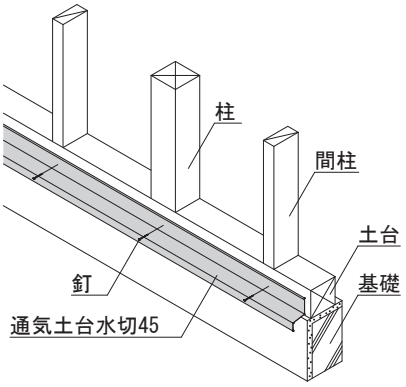


設計・施工のポイント

土台水切の取り付け ⇒ 透湿防水シート張り

土台通気水切の取り付け

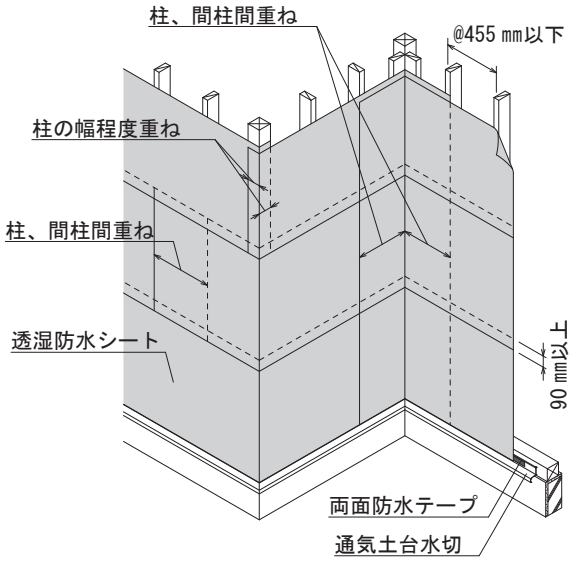
・通気土台水切45を土台に、柱・間柱の間隔で取り付けてください。
・積雪の多い地域では、通気土台水切45の下に当て木を入れるなどして、対処してください。
・通気土台水切45は胴縁、透湿防水シートを施工する前に取りつけてください。



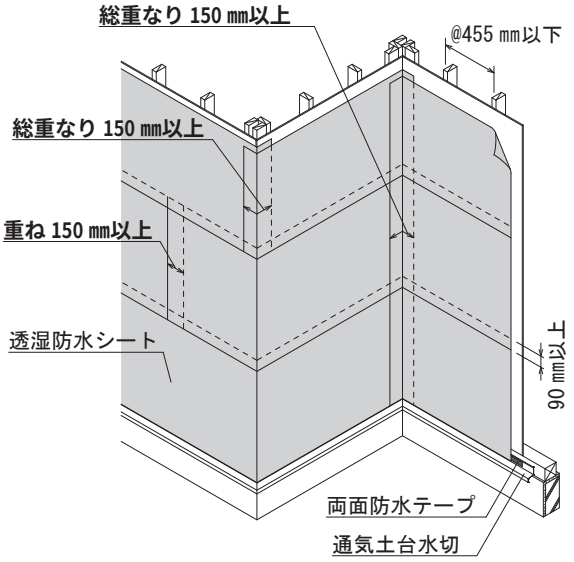
透湿防水シート張り

・透湿防水シートの張り方は横張りで、下から上へと張り上げてください。
・通気土台水切45と透湿防水シートとの間は両面防水テープで貼り合わせてください。
・上下の重ね代は90㎜以上とし、左右の重ね合わせ代は下図を参照してください。

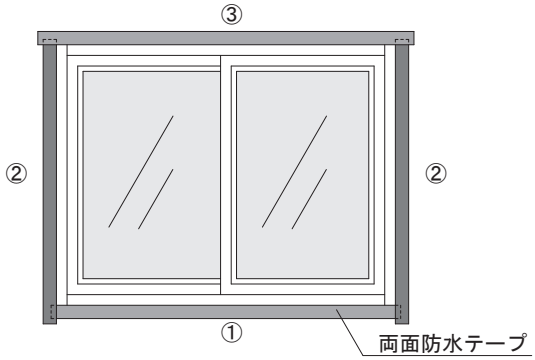
［ 軸組構造の場合 ］
・上下90㎜以上、左右は柱（間柱）と柱（間柱）の重ね合わせ代を設けてください。
（左右の重ねは必ず、柱・間柱に留めてください）



［ 枠組構造の場合 ］
・上下90㎜以上、左右150㎜以上の重ね合わせ代を設けてください。



・開口部まわりは右図の順番でサッシ枠に両面防水テープを貼ってください。



設計・施工のポイント

胴縁の施工

胴縁の施工

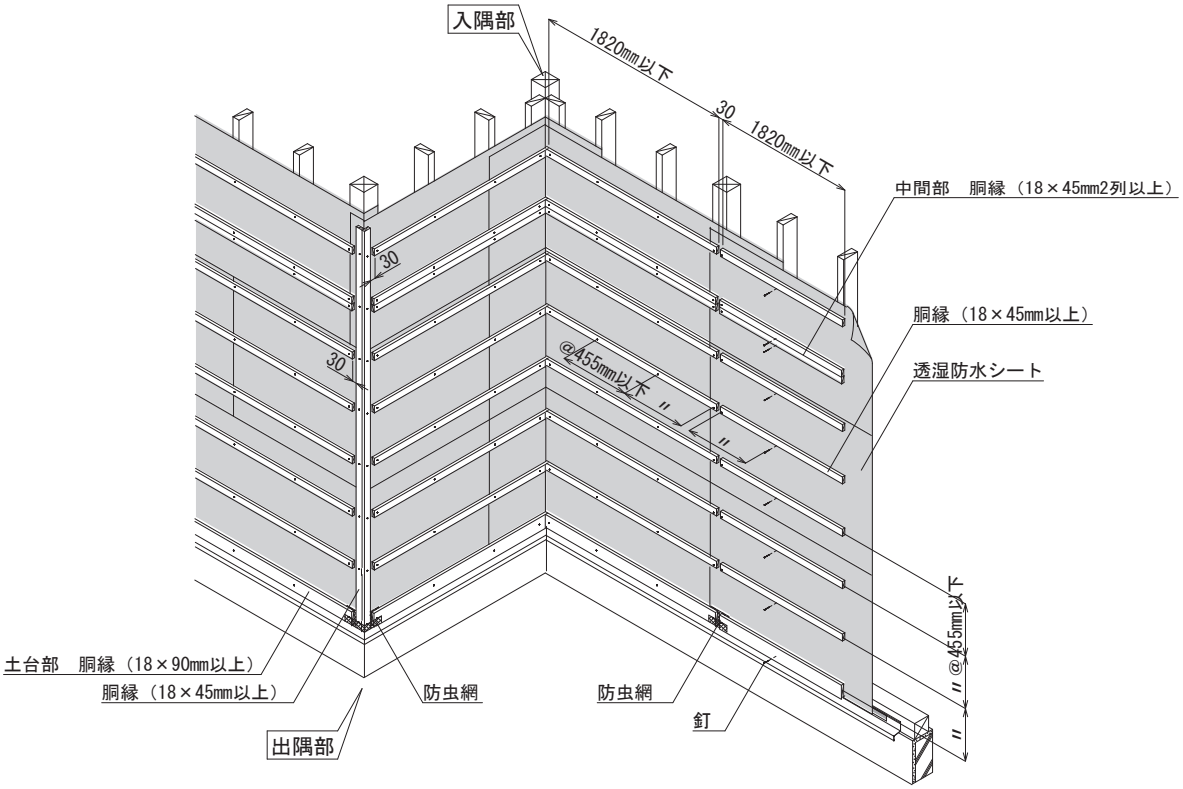
・胴縁は455㎜以下の間隔で取り付けてください。

・釘の留め付け間隔は、455㎜以下で柱、間柱に取り付け、1820㎜以下毎に30㎜の通気層を設けてください。

・土台部、軒天部は、役物を取り付ける必要がありますので、幅90㎜以上のものを使用してください。

・出隅部は縦胴縁と横胴縁に30㎜の隙間を開け、入隅部は胴縁の一方が重なるように施工してください。

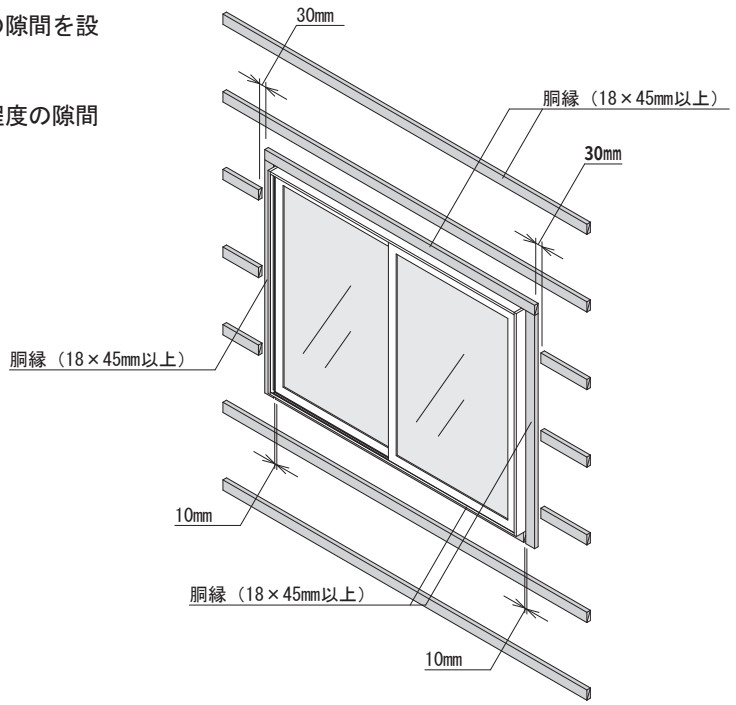
・基礎部の通気層は、小動物や虫の侵入を防ぐために、防虫網などを処理することをおすすめします。



開口部の胴縁施工

・開口部の胴縁は通気を妨げないように30㎜程度の隙間を設けてください。

・開口部下側の胴縁と開口部左右の胴縁は、10㎜程度の隙間を設けてください。

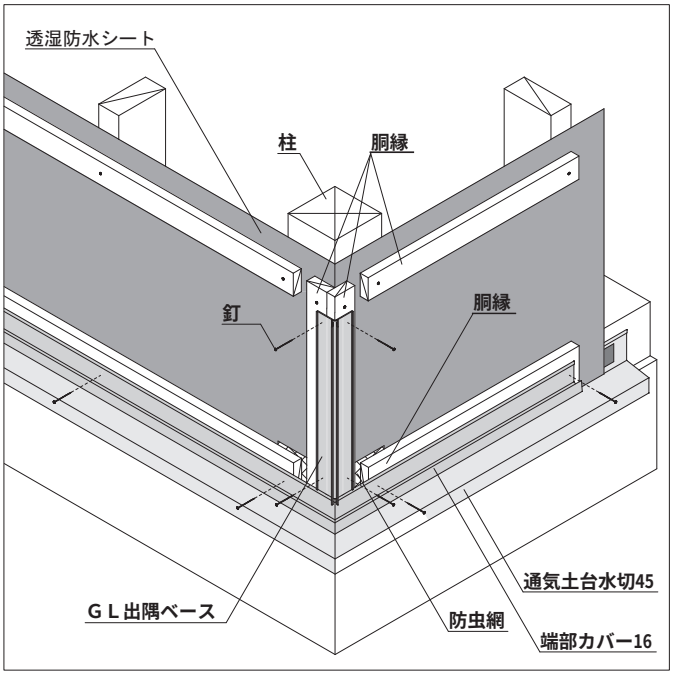


タテ張り

出隅部の施工 (キャップ)

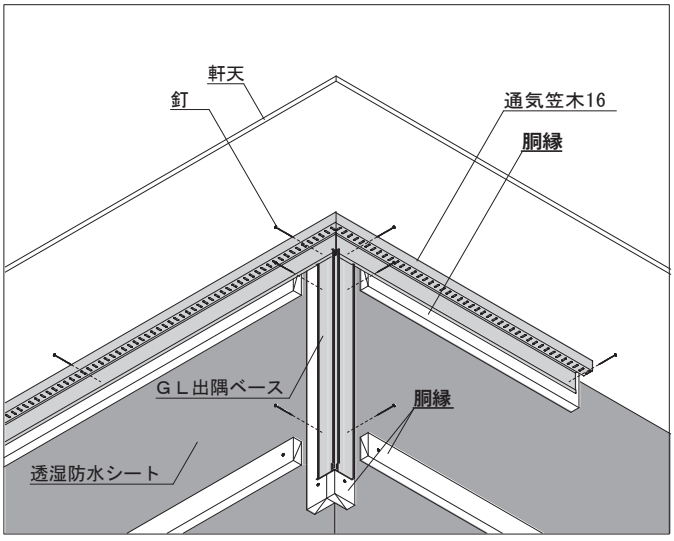
出隅土台部の施工

・端部カバー16、ＧＬ出隅ベースを各胴縁上に施工してください。
・ＧＬ出隅ベース下端を端部カバー16の上端に突き付けて施工してください。
・釘の留め付けは、455㎜以下の間隔としてください。



出隅軒天部の施工

・通気笠木16、ＧＬ出隅ベースを各胴縁上に施工してください。
・釘の留め付けは、455㎜以下の間隔としてください。



タテ張り

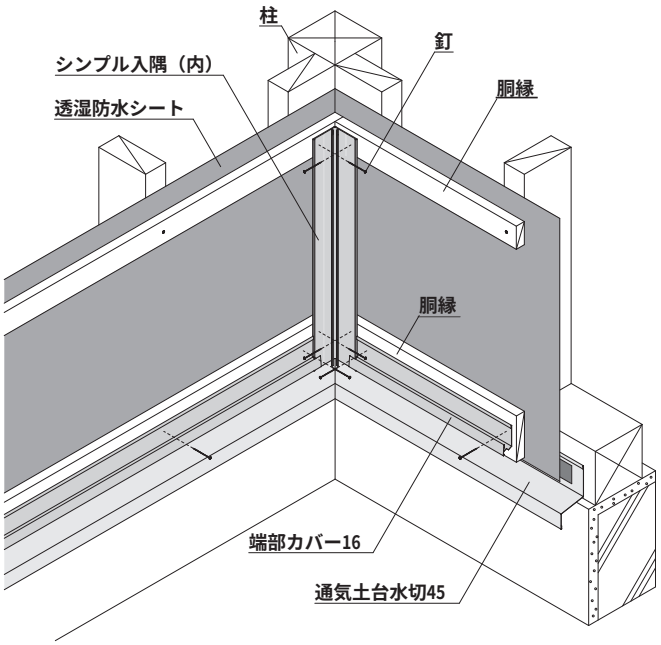
入隅部の施工

入隅土台部の施工

・端部カバー16、シンプル入隅（内）を各胴縁上に施工してください。

・端部カバー16の下端と水切の間には、雨水が排出できるよう10㎜程度の隙間をあけてください。

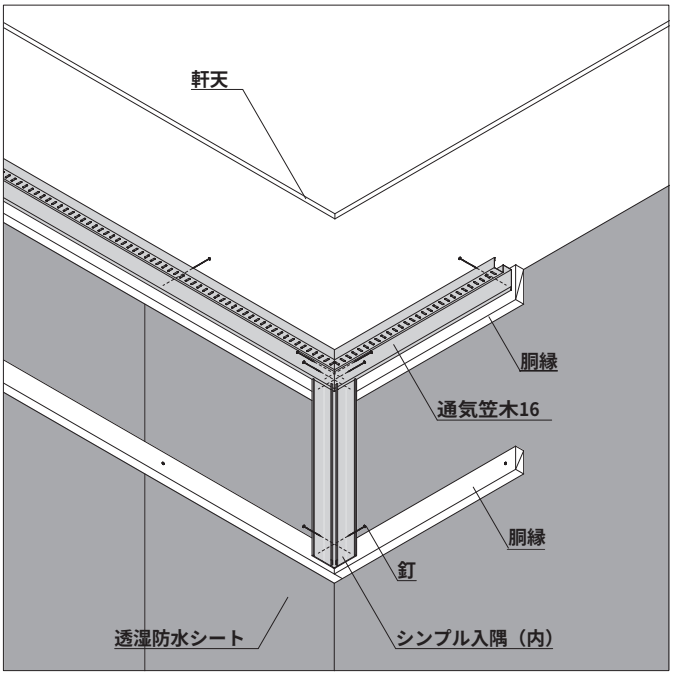
・釘の留め付けは、シンプル入隅（内）は横胴縁間隔に、端部カバー16は455㎜以下の間隔としてください。



入隅軒天部の施工

・通気笠木16、シンプル入隅（内）を各胴縁上に施工してください。

・釘の留め付けは、シンプル入隅（内）は横胴縁間隔に、通気笠木16は455㎜以下の間隔としてください。

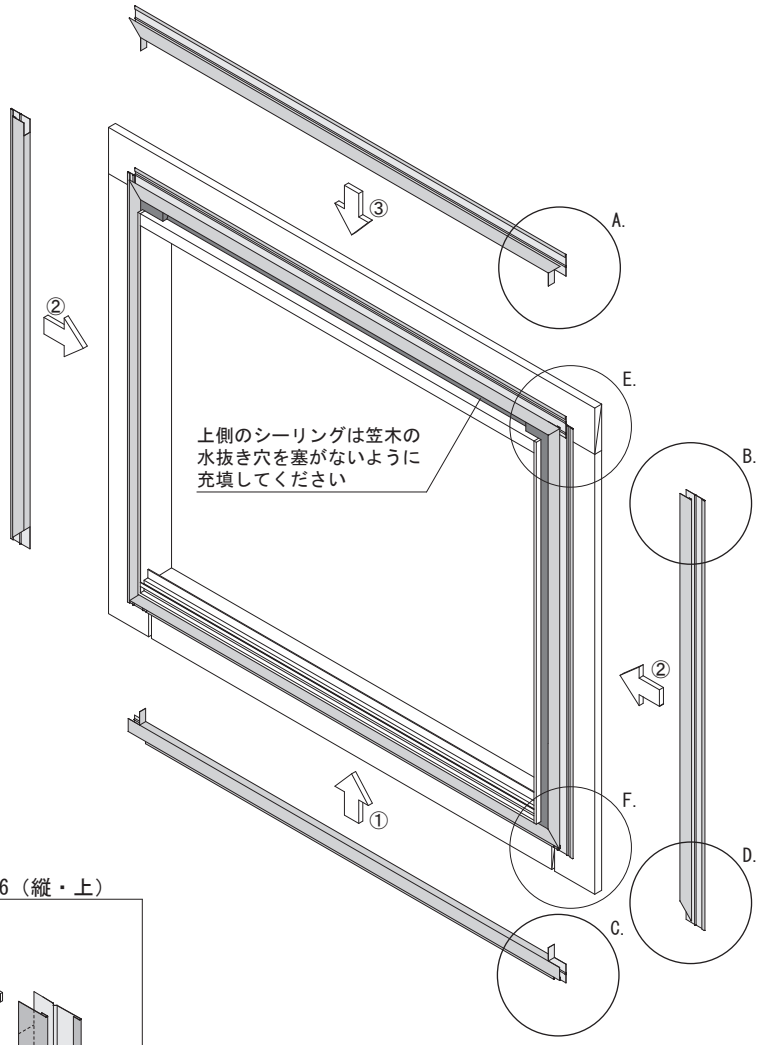


設計・施工のポイント

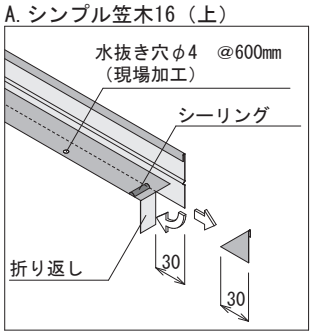
開口部廻りの役物施工

開口部廻りの施工

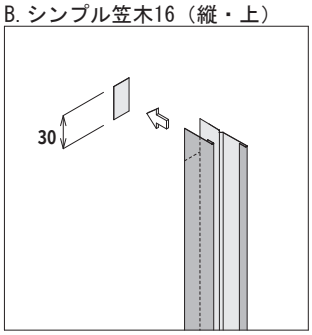
・開口部廻りには、シンプル笠木16を下図のように加工して①～③の順序で施工してください。
・開口部上部のシンプル笠木16には、φ6㎜以上の水抜き穴を600㎜程度の間隔で開けてください。（図A. 参照）
・開口部上部のシンプル笠木16には、両端部の内側底部にシーリングを施工してください。（図A. 参照）
・切り欠いたシンプル笠木16同士の重ね部分には、止水のために捨てシーリングを施工してください。（図E. F. 参照）
・シンプル笠木はサッシ枠から10㎜程度あけて、シーリング代を確保して施工してください。



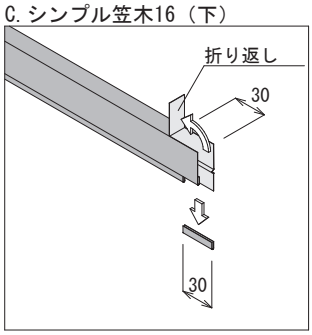
A. シンプル笠木16（上）



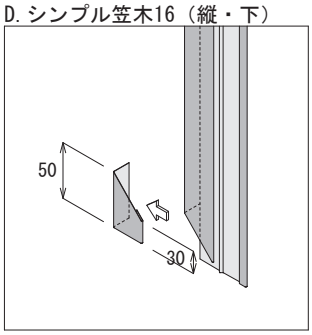
B. シンプル笠木16（縦・上）



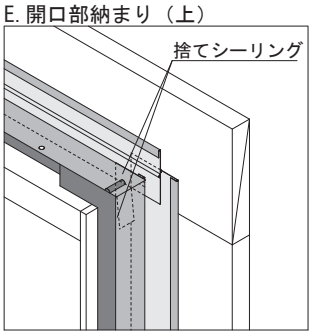
C. シンプル笠木16（下）



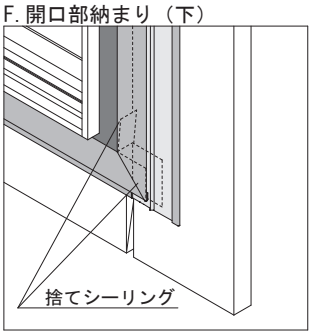
D. シンプル笠木16（縦・下）



E. 開口部納まり（上）



F. 開口部納まり（下）



設計・施工のポイント

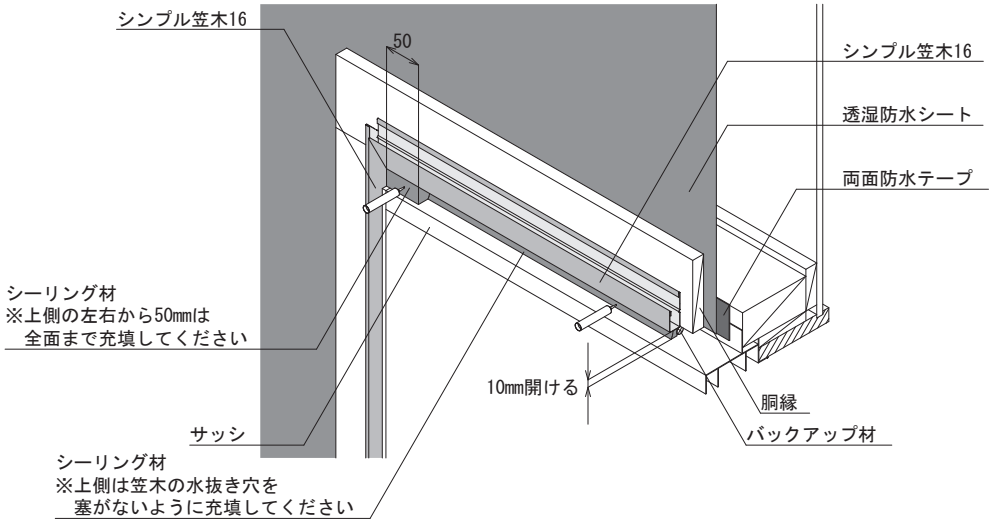
開口部の防水処理

開口部シーリング

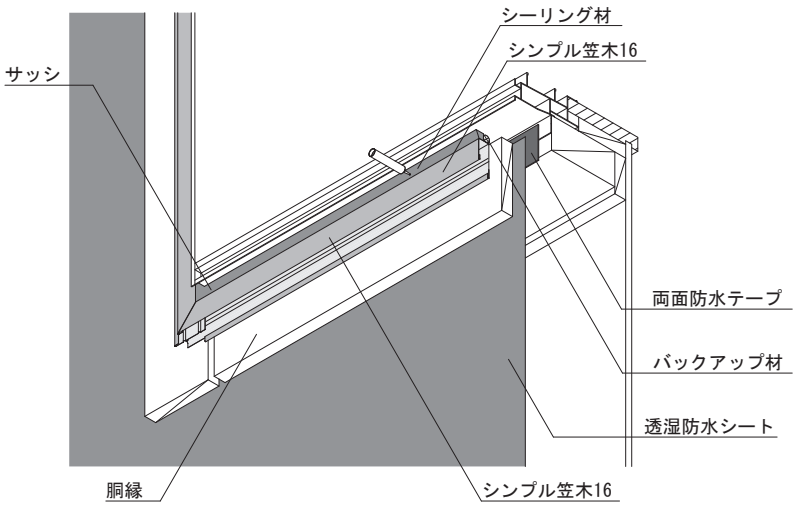
・サイディング本体取り付け後、サッシ枠とシンプル笠木16の隙間に必ずシーリングを行ってください。

・上側のシーリングは笠木の水抜き穴を塞がないように充填してください。

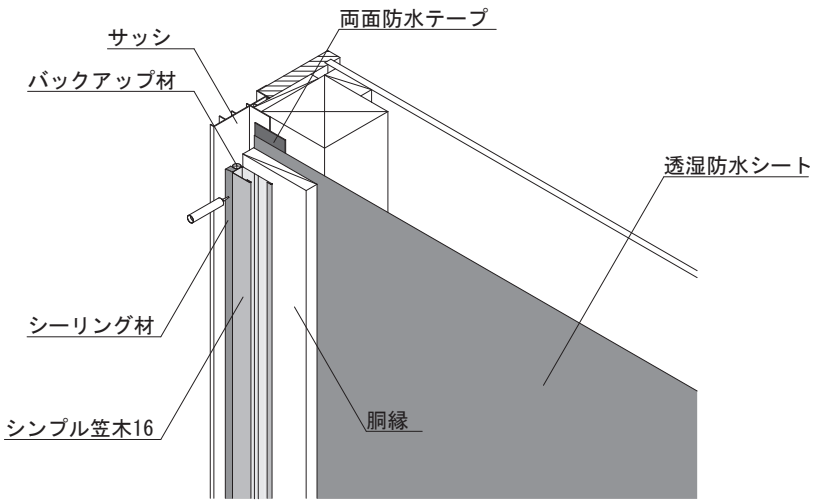
開口部　上



開口部　下



開口部　左右



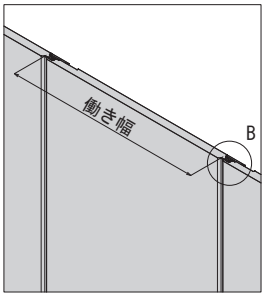
タテ張り

サイディング本体の施工

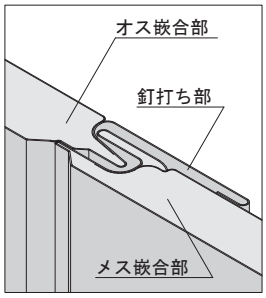
本体土台部の施工

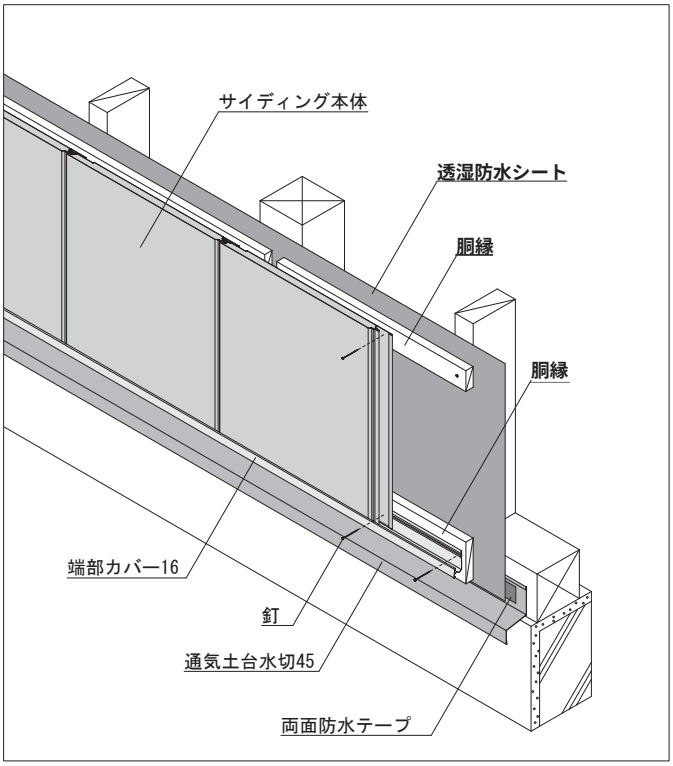
- **各先付け役物類が施工されていることを確認後、墨出し線に合わせて本体の施工を行ってください。**
- **本体の下端を端部カバー16に差込み、オス側の釘打ち部に釘で留めてください。**
- **釘の留め付けは、横胴縁に455㎜以下の間隔としてください。**
- **本体2枚目以降は、オス側とメス側を確実に差込み、働き幅に合わせて施工してください。**

A. 本体働き幅



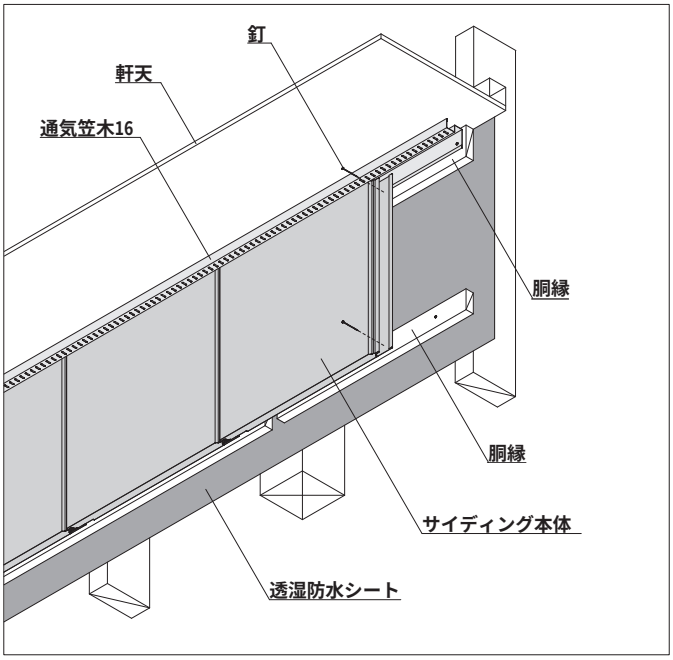
B. 本体嵌合部





本体軒天部の施工

- 本体最上段は、通気笠木16の上端まで差込み、下の端部カバー16に落とし込んで、オス側の釘打ち部に釘で留めてください。
- 本体最上段は、通気笠木16への差込み、および落とし込みを行うため、採寸時にはご注意ください。
- 釘の留め付けは、縦胴縁に455㎜以下の間隔としてください。



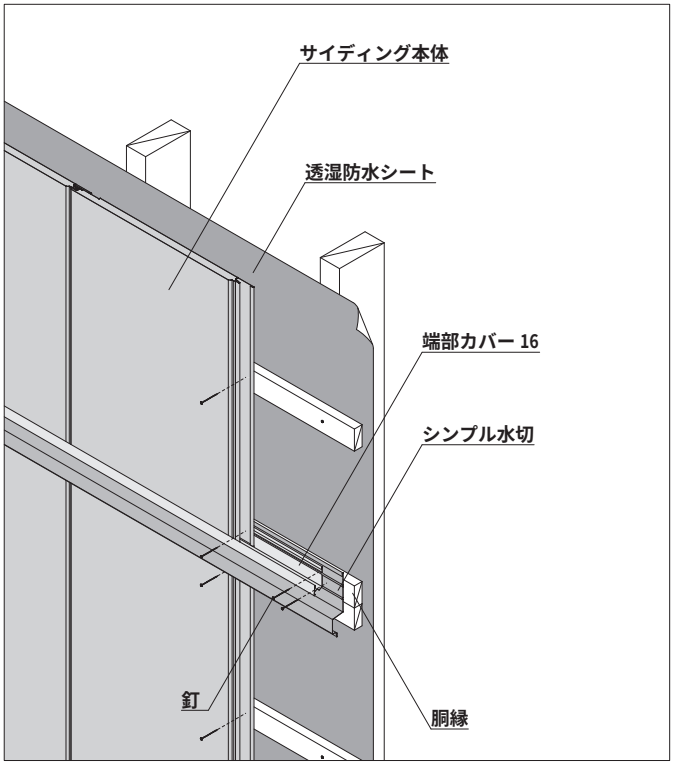
設計・施工のポイント

中間部　縦継ぎの施工

中間部の施工

・１階部分の本体を施工した後、シンプル水切、端部カバー16を胴縁上に施工してください。

・釘の留め付けは、シンプル水切、端部カバー16ともに455㎜以下の間隔としてください。

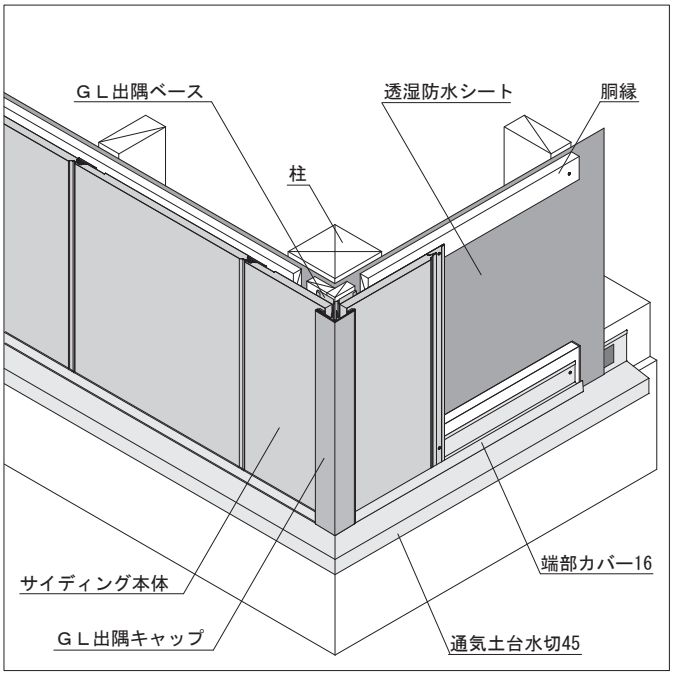


タテ張り

出隅部の施工 (キャップ)

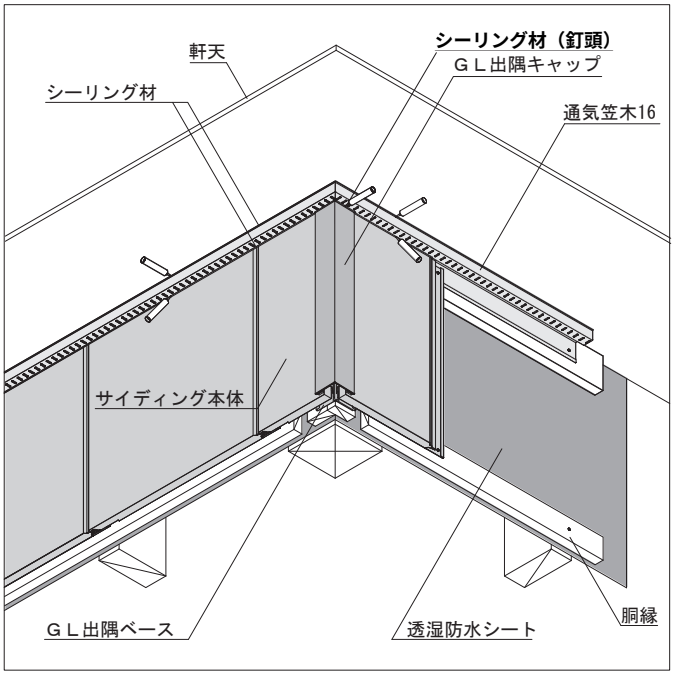
出隅土台部の施工

・ＧＬ出隅キャップの下端をサイディング本体の下端で揃えて、下から上へＧＬ出隅ベースと嵌合させてください。
・キャップ裏面に防水シールが貼り付けているもので保護紙が付いている場合は、保護紙を剥がしてからベースと嵌合させてください。
・キャップ裏面に防水シールが貼り付けていないものは、サイディング本体とキャップの重ね部分に捨てシーリングを行ってください。



出隅軒天部の施工

・通気笠木16の下端と出隅キャップの上端の位置を揃うようにＧＬ出隅ベースと嵌合させてください。
・下記の箇所にシーリングを行ってください。
①軒天と通気笠木16
②通気笠木16とサイディング本体
③通気笠木16とＧＬ出隅キャップ上端
・キャップ裏面に防水シールが貼り付けているもので保護紙が付いている場合は、保護紙を剥がしてからベースと嵌合させてください。
・キャップ裏面に防水シールが貼り付けていないものは、サイディング本体とキャップの重ね部分に捨てシーリングを行ってください。

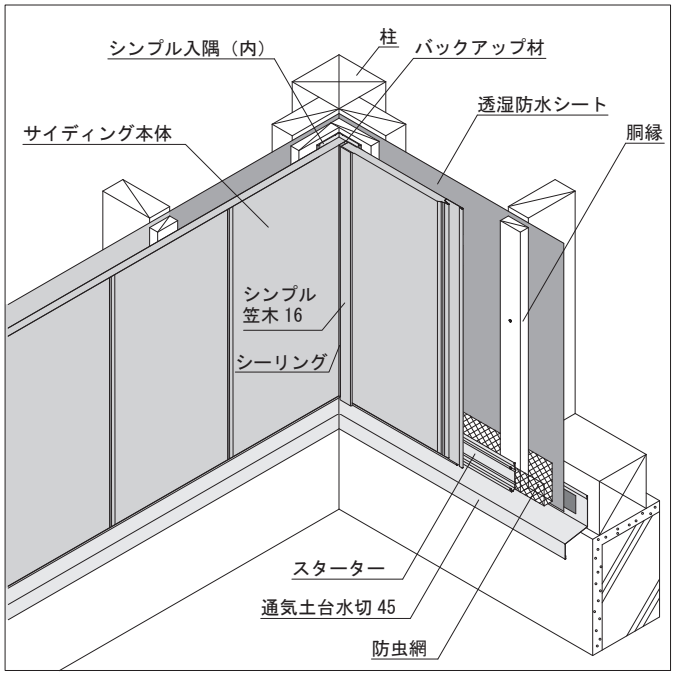


入隅部の施工

入隅土台部の施工

・片側の壁のサイディング本体を施工後、サイディング本体の表面から約10㎜の隙間を空けて、シンプル笠木16を施工し、残る片側のサイディング本体を施工してください。

・サイディング本体表面とシンプル笠木16の隙間にφ10㎜のバックアップ材を差し込み、上からシーリングを行ってください。



入隅軒天部の施工

・通気笠木16の下端とシンプル笠木16の上端の位置を揃うように施工してください。

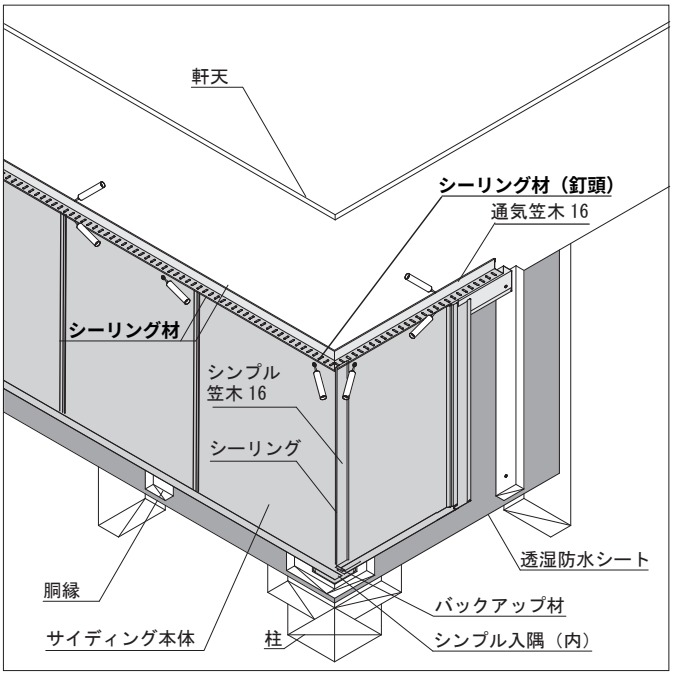
・下記の箇所にシーリングを行ってください。

①軒天と通気笠木16

②通気笠木16とサイディング本体

③通気笠木16とシンプル笠木16上端

④サイディング本体とシンプル笠木16

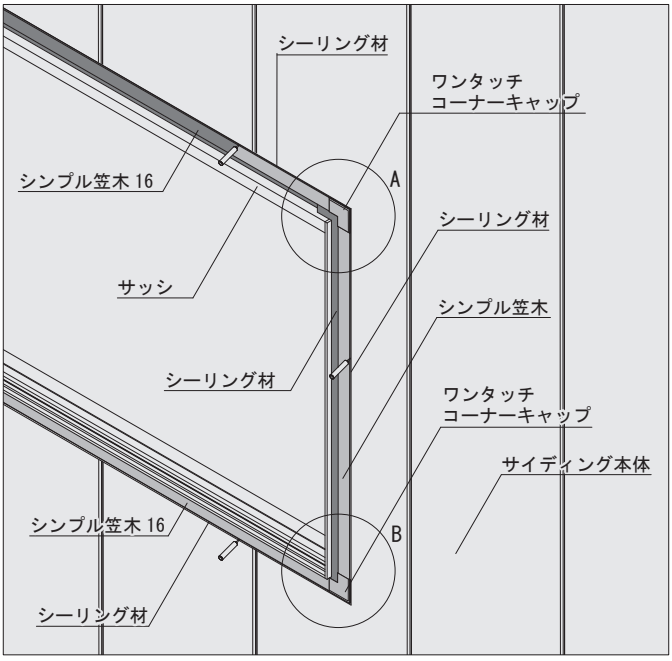


設計・施工のポイント

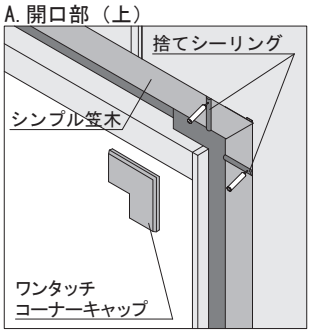
開口部の仕上げ

開口部の施工

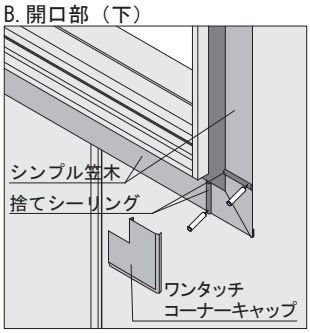
・シンプル笠木16の中にサイディング本体を差し込んでください。
・シンプル笠木16と本体の隙間にシーリングを行ってください。
・開口部コーナーは、捨てシーリングを行った上で、ワンタッチコーナーキャップを取り付けてください。



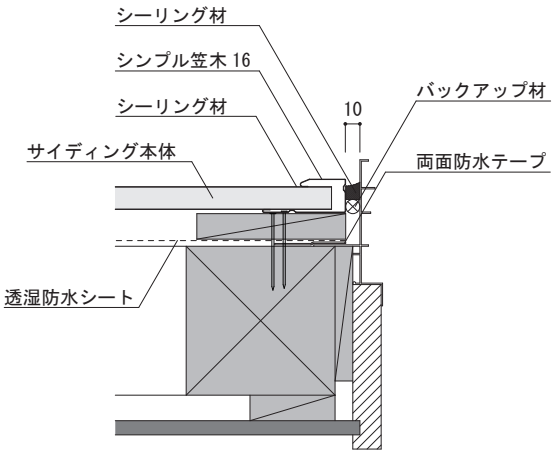
A. 開口部（上）



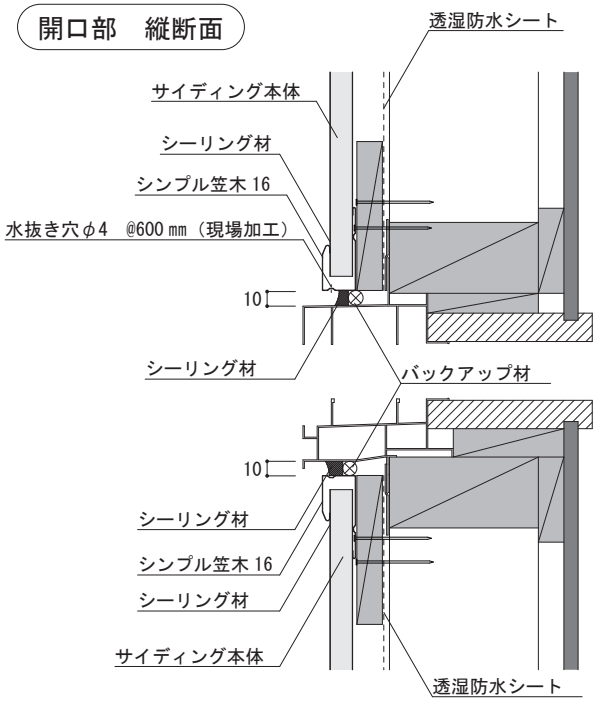
B. 開口部（下）



開口部　横断面



開口部　縦断面



設計 ・ 施工のポイント

ヨコ張り タテ張り

施工後のメンテナンス

メンテナンス時は、金属サイディング表面材にハシゴなどを立てかけるとへこむ場合がありますので、立てかけないようにしてください。

クリーニング

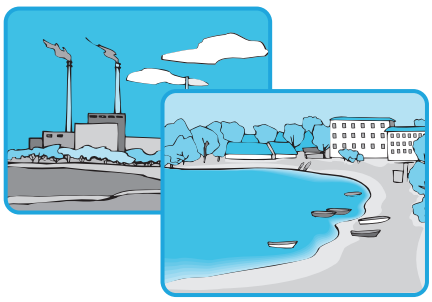
金属サイディングは、数回／年の水洗いで、より長くご使用いただけます。
使用環境や汚れの状況により水洗い回数を増やしてください。

①水洗いなどにより表面の汚れなどを洗い流し、さらにスポンジや柔らかい布などで十分に水洗いしてください。
毛羽立ったタオルなどでは繊維がサイディングに付着する場合があります。また、金属たわし・ブラシなどでは表面に傷がつきますので使用しないでください。
②水洗いで取れない汚れなどは家庭用の中性洗剤（約1%水溶液）を使用し、最後に水洗いをしてください。
酸性・アルカリ性の洗浄剤やシンナーは、腐食や変色の原因となります。また、研磨剤の入ったものも表面を傷つけますので使用しないでください。

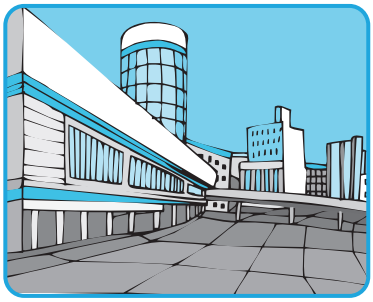
汚れやすい場所

■軒下、庇の下、バルコニーの下など雨水の当りにくい部分。
■アルコーブ、内壁などの内部に入り込んだところ。

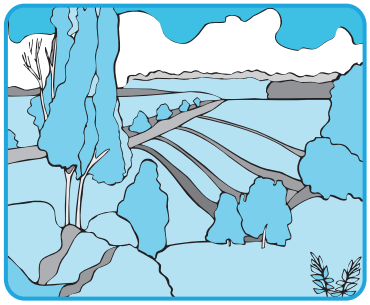
手入れの目安



工業地域・海岸地域
3～4回／年



市街地
1～2回／年



田園地域
1回／年

補修塗装

金属サイディングの補修塗装は、全体を水洗いクリーニングした後、以下の要領で補修します。

①水洗い後、十分乾燥させ、メーカー推奨の補修塗料で補修してください。
補修塗料は、缶全体を棒等で十分に攪拌し、支障のない部分で補修塗料とサイディングの色に差がないことを確認してください。
②金属サイディングの全体を再塗装する場合は、2液型ポリウレタン樹脂塗料などの耐候性の高い塗料を推奨いたします。
また、塗装の際は以下の注意事項をご参照願います。

■金属サイディング施工後2～3年以内に塗装する場合は、表面に若干のワックスが付着しているため塗料の付着が悪いので、マジッククロスあるいはサンドペーパーなどで目荒らししてから塗装してください。
■金属サイディングの施工後、時間が経過している場合は、表面の汚れを落とし、発錆部はサンドペーパーなどで完全に除去し、エポキシ樹脂下塗り塗料を塗ってから塗装してください。
■強風や炎天下では塗料や補修面にごみが付着したり塗りむらが発生しやすくなりますので注意してください。

日新総合建材

ホームページ　www.nisshin-aandc.co.jp

●本社

塗装建材営業部　〒135-0016　東京都江東区東陽３丁目２３番２２号（東陽ＡＮビル）
塗装建材チーム　電話(03)5635-6130　ＦＡＸ(03)5635-6139

●支店・営業所

西日本支店　〒737-0004　広島県呉市阿賀南８丁目３９番３１号
電話(0823)23-0231　ＦＡＸ(0823)28-2690

西日本支店　九州営業所　〒810-0001　福島県福岡市中央区天神１丁目１３番２号（興銀ビル）
電話(092)781-6231　ＦＡＸ(092)791-6401

大阪支店　〒661-0975　兵庫県尼崎市坂部３丁目２番７０号
電話(06)6491-8042　ＦＡＸ(06)6491-8044

名古屋支店　〒460-0003　愛知県名古屋市中区錦２丁目１３番１９号（瀧定ビル）
電話(052)229-4420　ＦＡＸ(052)201-4020

北日本支店　〒980-0811　宮城県仙台市青葉区一番町４丁目６番１号（仙台第一生命タワービル）
電話(022)224-8270　ＦＡＸ(022)224-8290

北日本支店　北海道営業所　〒060-0042　北海道札幌市中央区大通り西７丁目１番地（井門札幌パークフロントビル）
電話(011)272-1351　ＦＡＸ(011)241-8404

新潟・北陸支店　〒950-0087　新潟県新潟市中央区東大通１丁目３番１０号（三井生命新潟ビル）
電話(025)241-6540　ＦＡＸ(025)241-6541

北関東営業所　〒304-0004　茨城県下妻市大木１０００番２
電話(0296)44-3145　ＦＡＸ(0296)44-3069

●生産工場

塗装建材工場　〒272-0011　千葉県市川市高谷新町７番１
電話(047)709-5103　ＦＡＸ(047)709-5104

お問い合わせ

●このカタログに掲載の商品は、専門施工を必要とします。施工は販売店・専門施工店にご依頼ください。

●お問い合わせは、下記販売店にご相談ください。

●商品の改良などのため、仕様の一部を予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了解ください。